

時事経済情報 No. 78

2021年10月25日

福井県立大学客員教授

丹羽連絡事務所チーフエコノミスト

中島 精也

目次

- I 米国経済
- II 欧州経済
- III 中国経済
- IV 日本経済
- V マーケット動向

I 米⼭国経済

1. 米GDPはコロナ前のピークをようやく更新

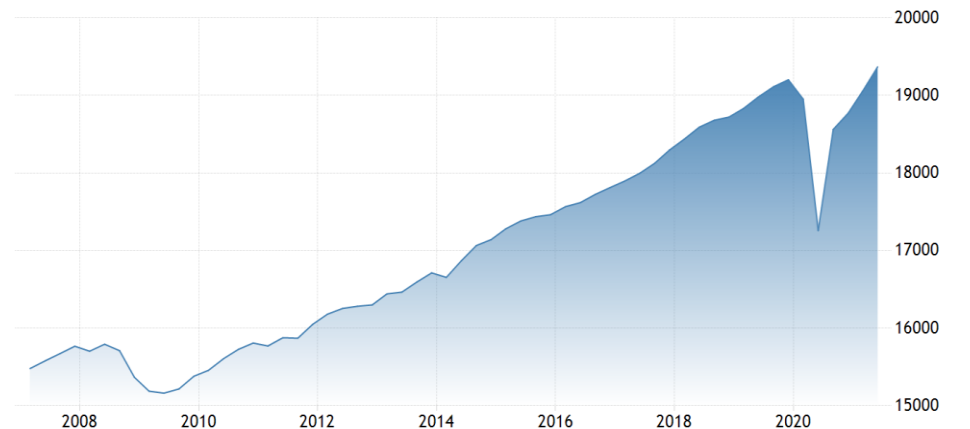
①4～6月期の実質GDP(三次推計)は19兆3,683億ドルとコロナ前のピーク(19年10～12月期19兆2,023億ドル)を上回る(右上図)。消費主導の成長で+6.7%(前期比年率、右下図)の伸び、前年比は+12.2%とコロナの反動で高い伸び。

②内需の寄与度は+6.91%、外需の寄与度は▲0.18%であった。

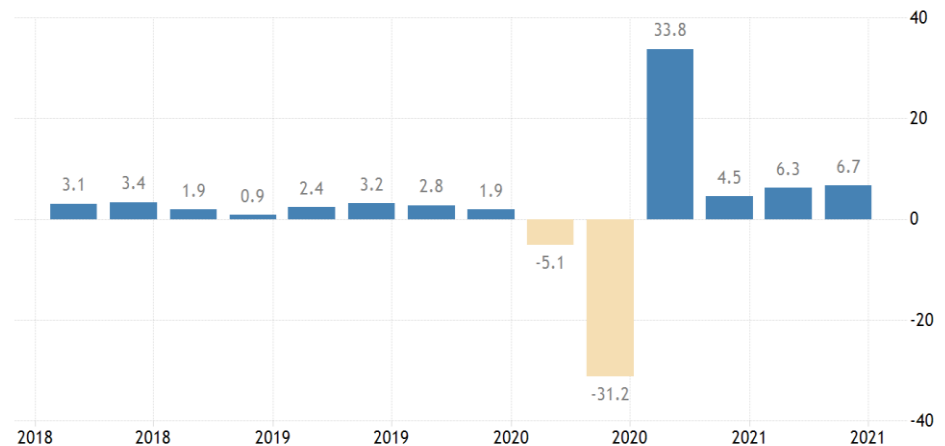
③個人消費の伸びは+12.0%(うちモノ+13.0%、サービス+11.5%)、設備投資は+9.2%、在庫投資の寄与度は▲1.26%。住宅投資の伸びは▲11.7%、政府支出は▲2.0%(連邦▲5.3%、地方+0.2%)

④輸出は+7.6%、輸入は+7.1%

⑤名目GDPの伸びは+13.4%、GDP物価指数は+6.1%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS

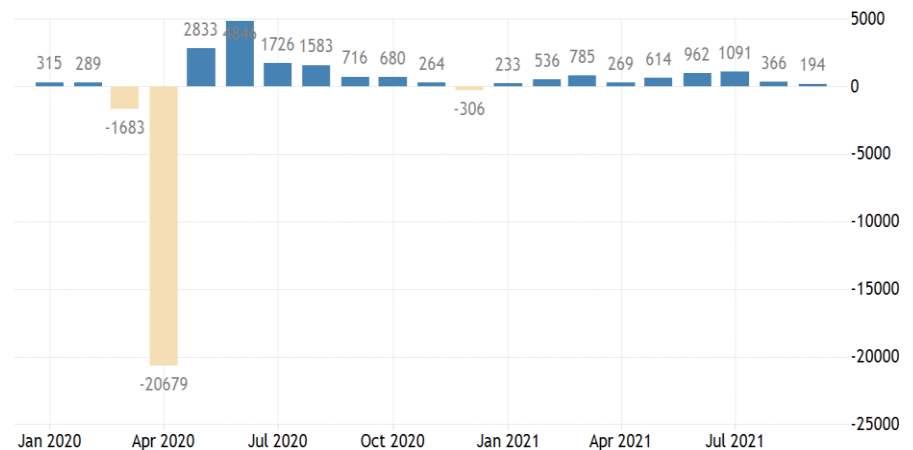
2. 米雇用回復はデルタ株で抑制される

①9月の雇用者数の前月比(右上図)は+19.4万人の増加と事前予想の+50万人を下回った。デルタ株で労働力の確保に支障がでたことも影響。昨年2月のピークに比べ▲497万人とコロナ前に戻していない。

②業種別ではレジャー・接客は+7.4万人、専門・ビジネスサービス+6.0万人、運輸・倉庫+5.32万人、小売り+5.61万人、運輸倉庫+4.73万人。教育▲1.89万人。

③失業率(右下図)は▲0.4ポイント低下して4.8%。労働参加率61.6%と前月より0.1ポイント低下。

④時間当たり賃金は前月比+19セント上昇して30.85ドルに、前年比は+4.6%と前月より+0.6ポイント伸びが高まる。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS



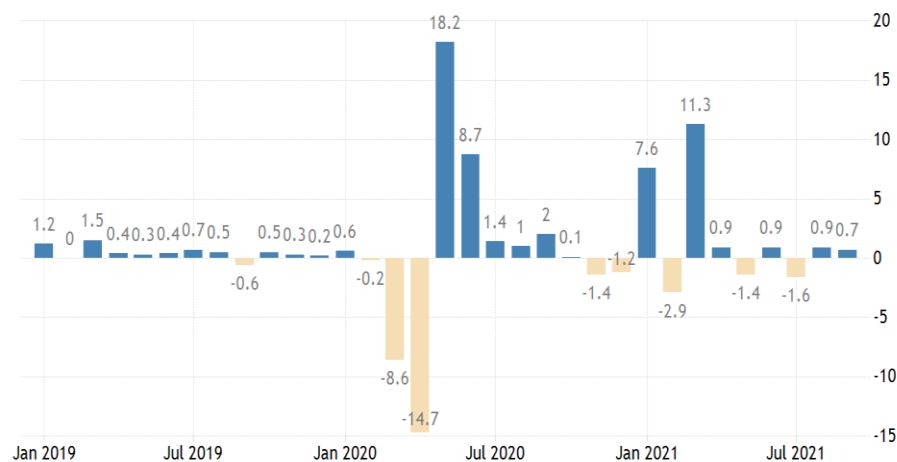
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS

3. 米国の小売売上高は前年の反動で高い伸び

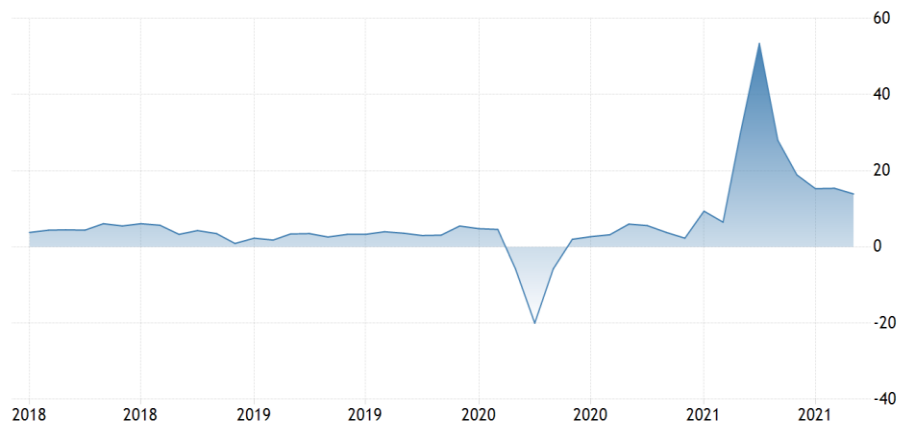
①9月の小売売上高は前月比(右上図)が+0.7%、前年比(右下図)は+13.9%。前年からの反動増が続く。

②業種別の前月比、前年比は

自動車	+0.5%、	+7.8%
家具	+0.2%、	+13.4%
電気製品	▲0.9%、	+17.2%
建設資材園芸用品	+0.1%、	+5.8%
食料品店	+0.7%、	+7.0%
健康ケア	▲1.4%、	+6.8%
ガソリンスタンド	+1.8%、	+38.2%
衣服アクセサリ	+1.1%、	+22.4%
スポーツ用品・趣味		
・書籍・音楽	+3.7%、	+14.2%
大規模商業施設	+2.0%、	+13.2%
無店舗販売	+0.6%、	+10.5%
飲食業	+0.3%、	+29.5%



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

4. 米消費者信頼感指数は回復のスピードが鈍い

①10月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報、右上図)は、71.4で前月比▲1.4ポイントの低下。現状指数は80.1から77.9に低下、期待指数は68.1から67.2に低下。

②9月コンファレンスボード消費者信頼感指数(右下図)は109.3と前月比▲5.9ポイントと3ヶ月連続の低下。現状指数は8月148.9→9月143.4に低下、期待指数は8月92.8→9月86.6に低下。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | UNIVERSITY OF MICHIGAN

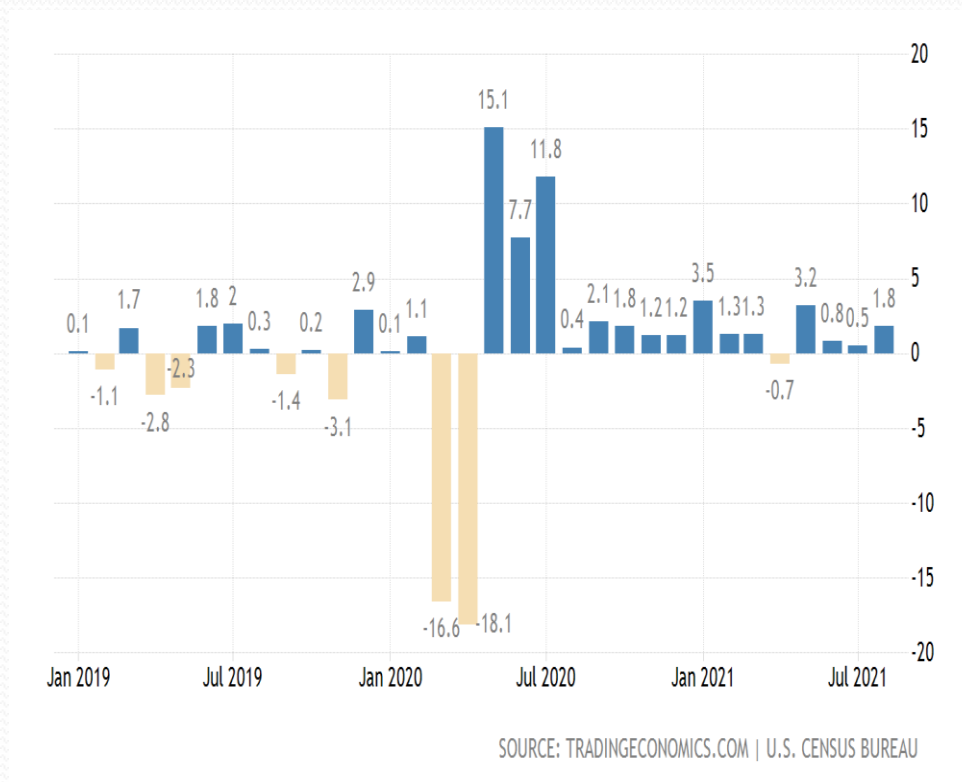


*Shaded areas represent periods of recession.
Sources: The Conference Board; NBER.
© 2021 The Conference Board. All rights reserved.

5. 米耐久財新規受注は回復傾向続く

①8月の耐久財新規受注(速報)は前月比(右図)+1.8%の上昇、前年比は+20.0%。輸送機器を除く耐久財新規受注は前月比+0.2%、前年比+17.3%、国防除く耐久財新規受注は前月比+2.4%、前年比+22.4%。

②民間設備投資の先行指標となる非国防資本財から航空機を除いたコア資本財受注は前月比+0.5%、前年比+15.8%。



6. 米住宅統計は長期平均付近で揉み合い

①9月の米住宅着工戸数は年率155.5万戸（右上図）、前月比は▲1.6%、前年比は+7.4%。一戸建は前月比0.0%、前年比は▲2.3%、集合住宅（5件以上）は前月比▲5.1%、前年比は+38.2%。地域別で前月比、前年比で北東部▲27.3%、▲4.8%、中西部+6.9%、+3.3%、南部▲6.3%、+9.4%、西部+19.3%、+9.7%。

②7月のケースシラー住宅価格指数は前月比（季調済）は+1.6%、前年比+19.7%。

③8月の新築住宅販売戸数（右下図）は年率74.0万戸、前月比+1.5%、前年比は▲24.3%。うち地域別の前月比、前年比は北東部+26.1%、▲37.0%、中西部▲31.1%、▲46.9%、南部+6.0%、▲23.0%、西部+1.4%、▲16.3%。販売在庫比率は6.1ヶ月と前月より+0.1ヶ月上昇。



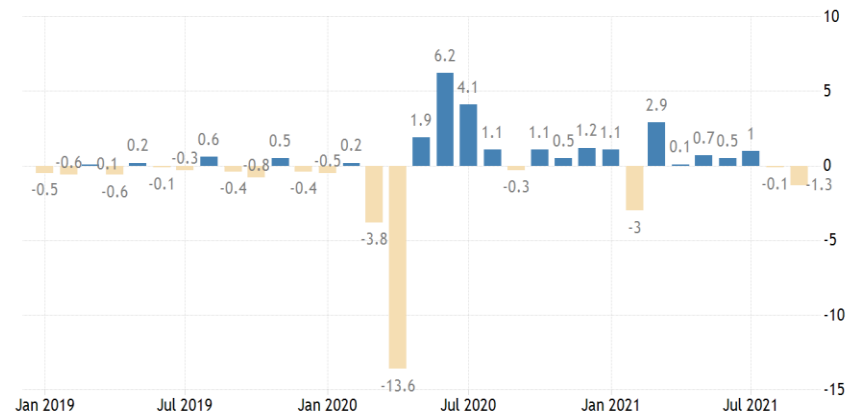
7. 米鋁工業生産は半導体不足が足かせ

①9月の鋁工業生産指数は前月比▲1.3% (右上図)。前年比は+4.6% (右下図)。

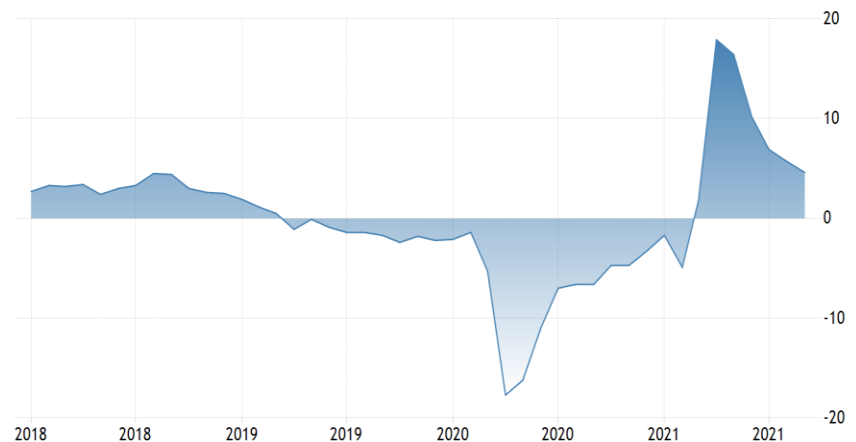
②鋁業の前月比は▲2.3%、前年比は+6.9%、公益事業の前月比は▲3.6%、前年比+1.6%。

③製造業の前月比は▲0.7%、前年比は+4.8%。うち自動車及び部品はそれぞれ▲7.2%、▲13.7%、コンピュータ・電子機器は▲0.1%、+11.0%、航空機は+1.1%、+15.6%、金属製品+0.3%、+3.8%、食料・飲料・タバコは▲0.6%、+1.0%、化学は▲2.1%、+6.0%。

④設備稼働率指数(製造業)は75.9と前月を▲0.6ポイント下回る。長期平均78.2を▲2.3ポイント下回る。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | FEDERAL RESERVE



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | FEDERAL RESERVE

8. 米国の輸出入は回復トレンド続く

①8月の貿易・サービス収支(季調済、左下図)は▲733億ドルと前月比▲29億ドルの赤字拡大。

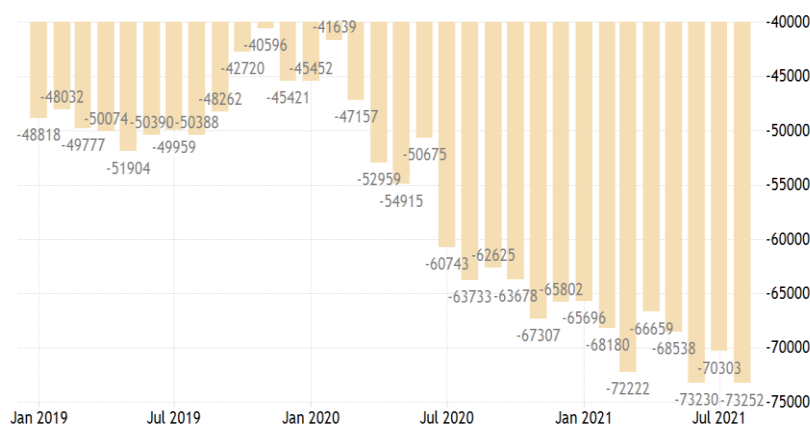
②財・サービス輸出(右上図)は前月比+10億ドルの2,137億ドル(前年比+22.6%)。前月比で工業用原材料+35億ドル、資本財▲8億ドル、自動車・部品▲10億ドル。

③財・サービス輸入(右下図)は前月比+40億ドルの2,870億ドル(前年比+20.6%)。前月比で消費財+30億ドル、工業用原材料+18億ドル、自動車・部品▲15億ドル。

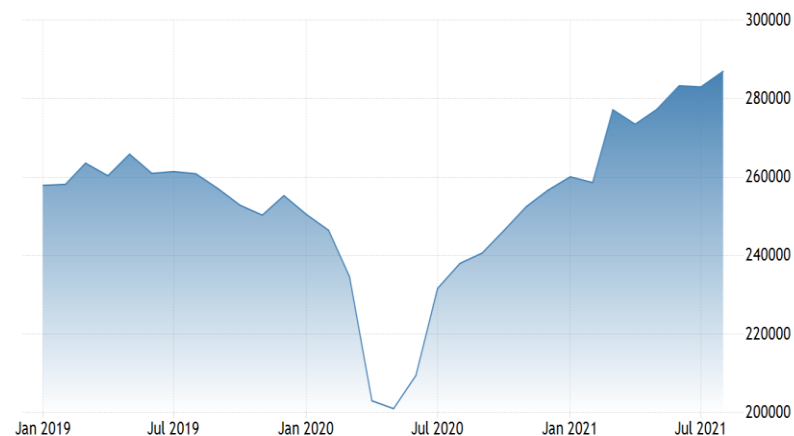
④対中輸出は117.2億ドルで前年比+2.7%、対中輸入は403.68億ドルで前年比+5.4%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS (BEA)



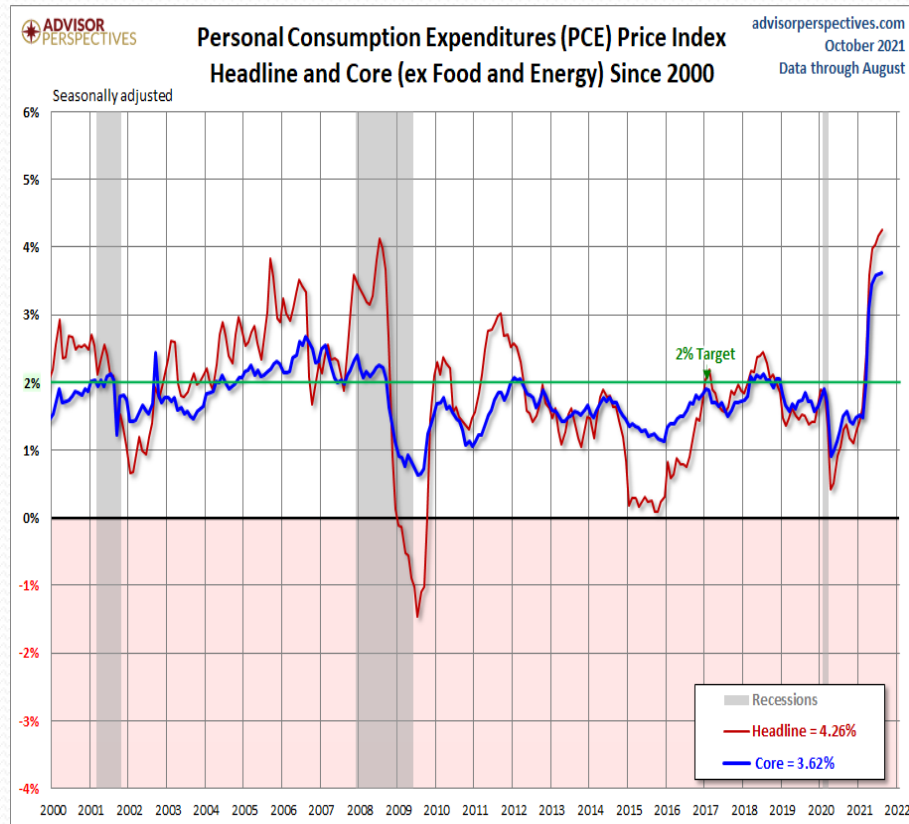
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

9. 米PCE物価指数は需給タイトで高い伸び続く

①8月のPCE(個人消費支出)総合物価指数の前年比(右図赤線)は+4.3%と前月より+0.1ポイント上昇。前月比は+0.4%。

②エネルギーと食料を除くコアPCE物価指数の前年比(右図青線)は+3.6%と前月と変わらず。前月比は+0.3%。

③財価格の前年比+5.5%、前月比は+0.6%、サービス価格の前年比は+3.6%、前月比は+0.3%。エネルギー価格の前年比+24.9%、前月比+1.9%。

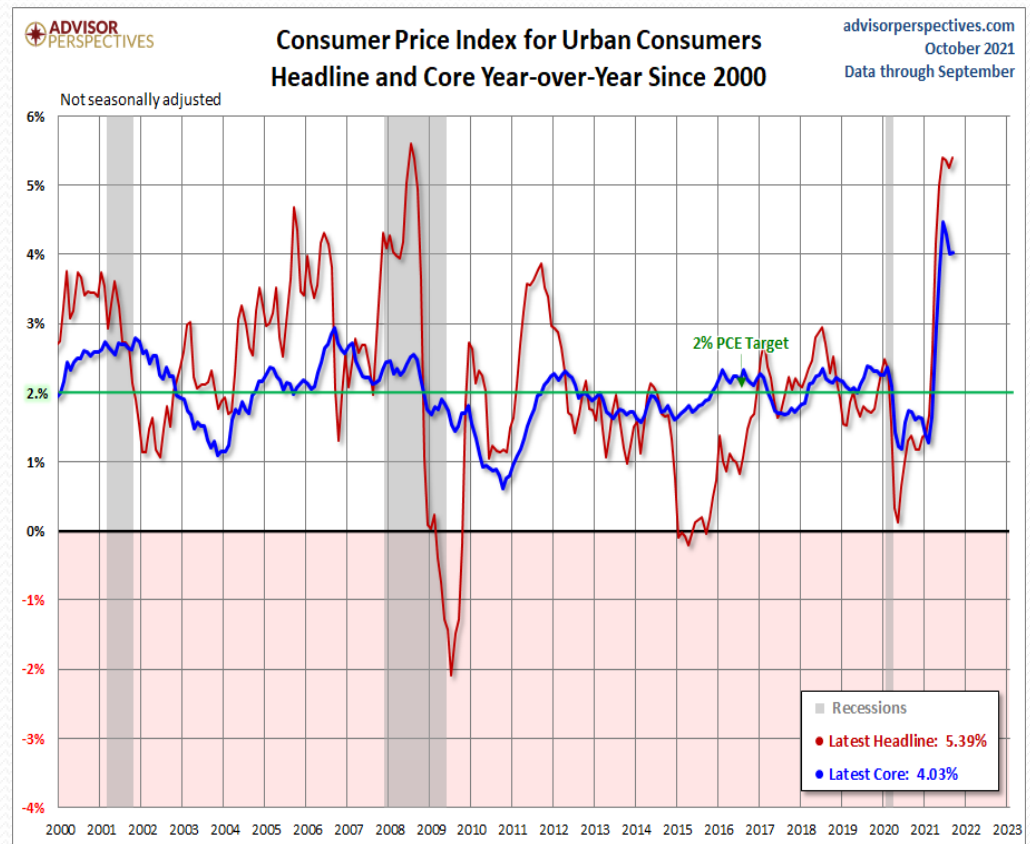


10. 米消費者物価は依然として高い伸び

①9月のCPI（消費者物価指数）総合の前年比は5.4%と前月より+0.1ポイント伸びが上昇。前月比は+0.4%。

②エネルギーの前年比は+24.8%（うちガソリン+42.1%、燃料油+42.6%、電気+5.2%、都市ガス+20.6%）、前月比は1.3%（うちガソリンは+1.2%、燃料油は+3.9%、電気+0.8%、都市ガス+2.7%）。

③エネルギーと食料を除くコアCPIの前年比（右図）は+4.0%と前月と変わらず。前月比は+0.2%。中古車価格の前年比は+24.4%。



11. 米製造業PMIは高水準で一進一退

①米サプライマネジメント協会 (ISM) 9月製造業PMI指数(右図赤線) は前月の59.9から+1.2ポイント上昇して61.1。項目別前月比では新規受注0.0ポイント

生産▲0.6

雇用+1.2

供給者納入+3.9

在庫+1.4

顧客在庫+1.5

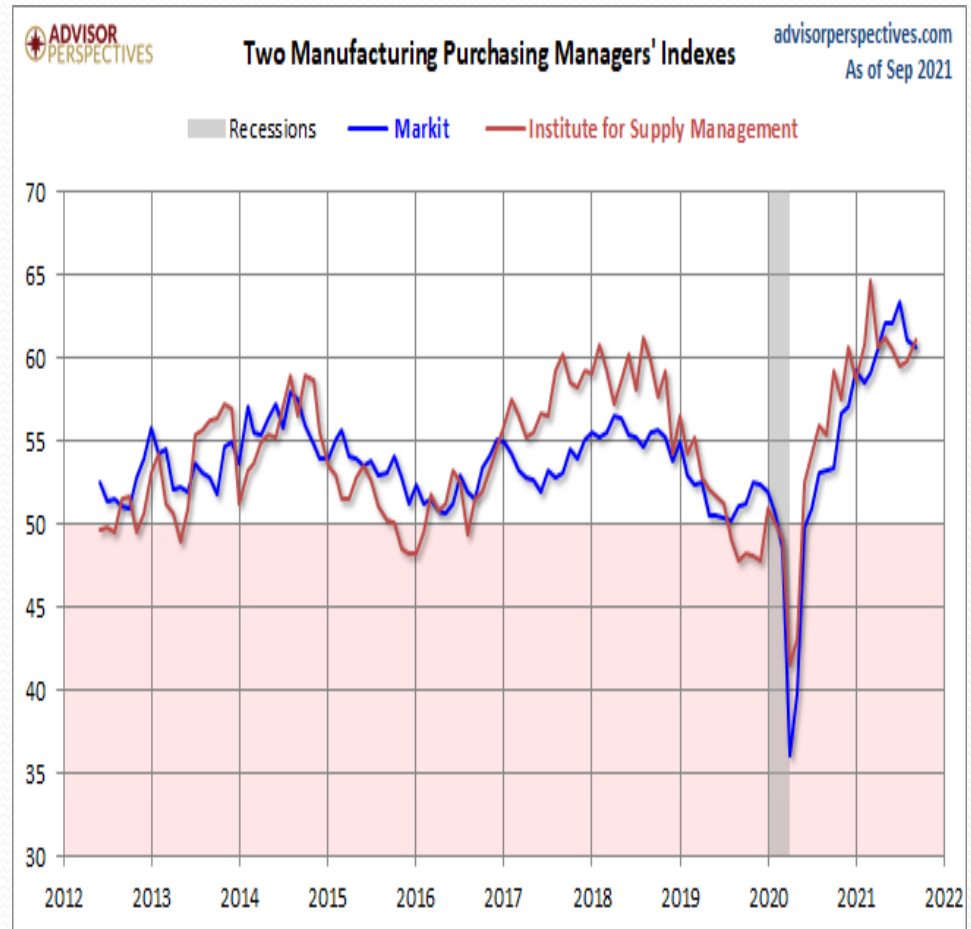
価格+1.8

受注残▲3.4

新規輸出受注▲3.2

輸入+0.6。

②9月Markit製造業PMI指数(右図青線)は60.7と前月比▲0.4の低下。





II 欧州経済

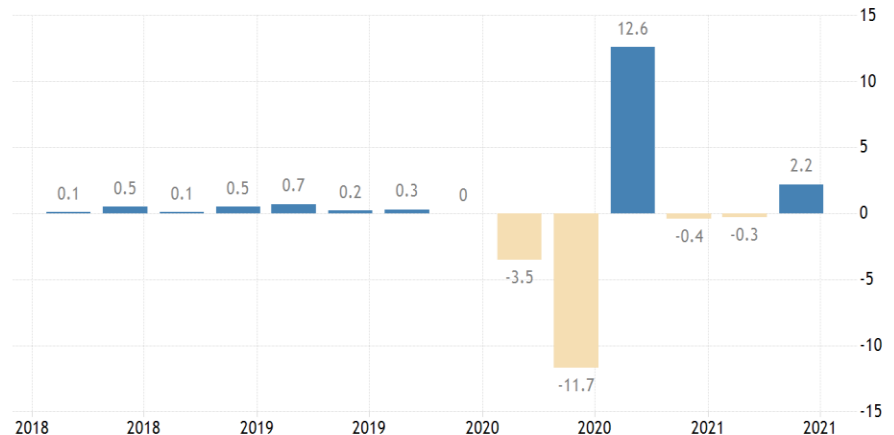
1. ユーロ圏4～6月期GDPは3期ぶりにプラス成長

①4～6月期のユーロ圏GDP(確報)は前期比(右上図)+2.2%と3四半期ぶりのプラス成長。前年比(右下図)は前年の反動増で+14.3%と6四半期ぶりのプラス成長。

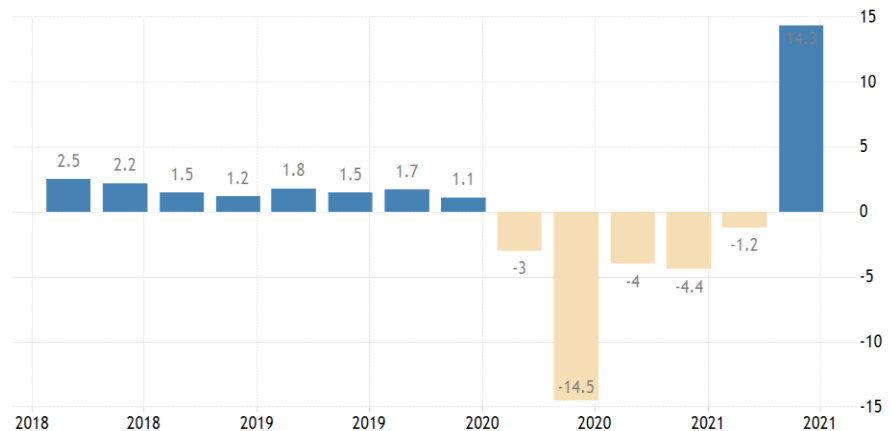
②前期比で独+1.6%、仏+1.1%、伊+2.7%、スペイン+2.8%、ポルトガル+4.9%、オーストリア+3.6%、ベルギー+1.7%。

③前年比で独+9.4%、仏+18.7%、伊+17.3%、スペイン+19.8%、ポルトガル+15.5%、オーストリア+11.9%、ベルギー+14.9%。

④BREXITした英国は前期比+4.8%、前年比+22.2%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



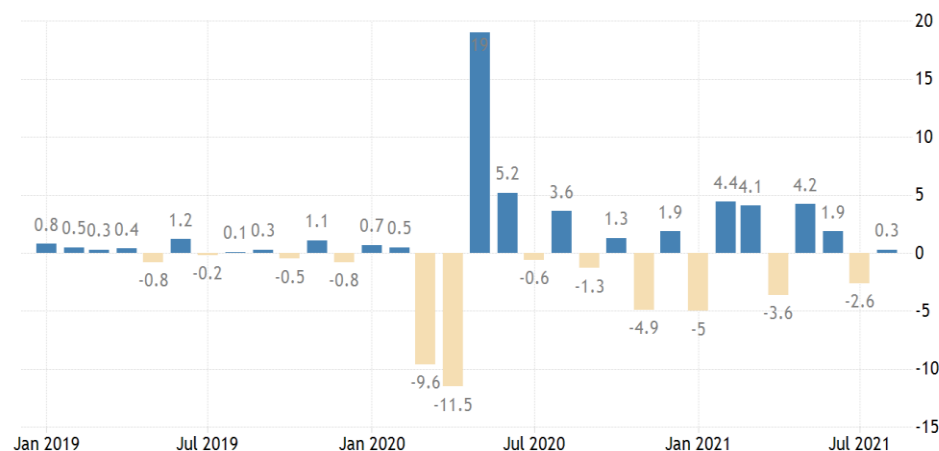
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

2. ユーロ小売売上高はエネルギー価格上昇が足かせ

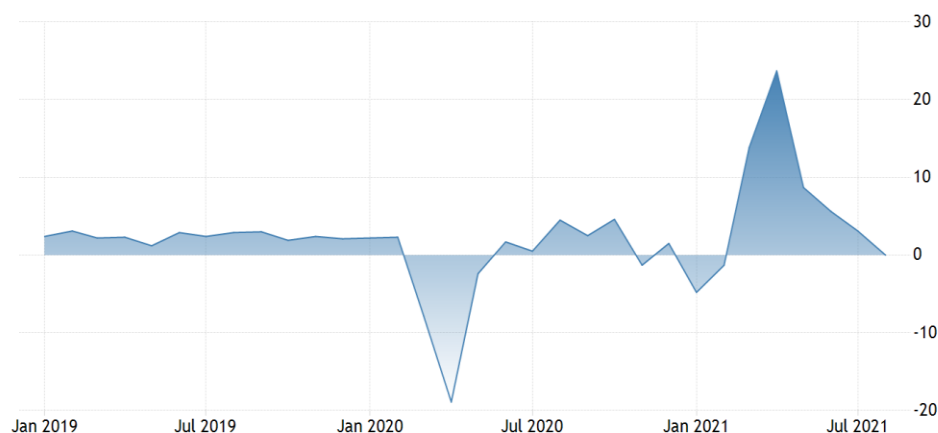
①8月のユーロ圏小売売上高（数量ベース、季調済）は前月比+0.3%（右上図）、前年比（右下図）は+0.0%。

②商品別前月比で食料・飲料・タバコ▲1.7%、非食料製品+1.8%（うち通信販売・インターネット+9.0%）、自動車燃料▲0.1%。

③商品別前年比では食料・飲料・タバコ▲1.9%、非食料製品+1.3%（うち通信販売・インターネット+9.7%）、自動車燃料+2.1%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



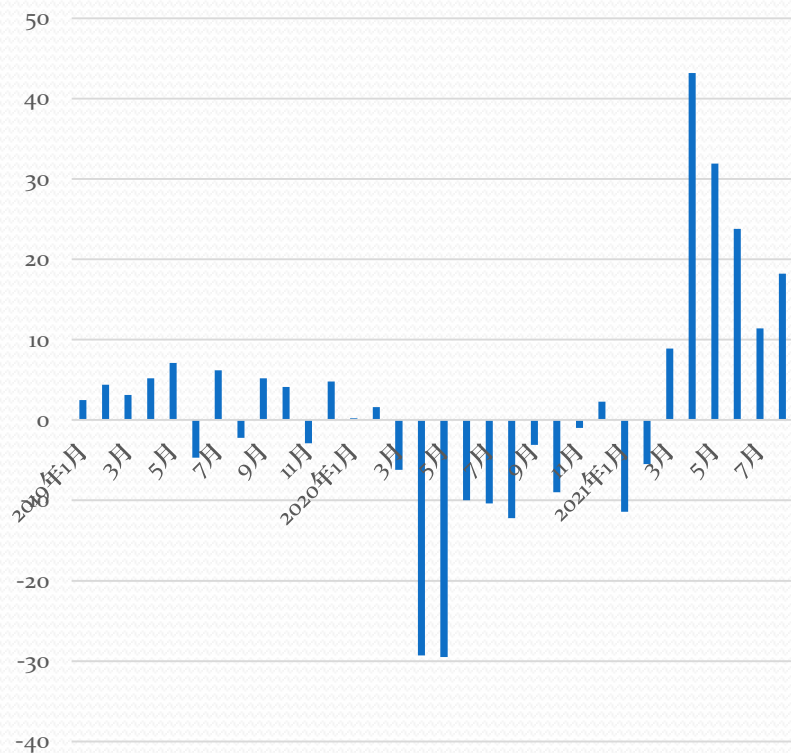
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

3. ユーロ圏の輸出、輸入共に伸びが高まる

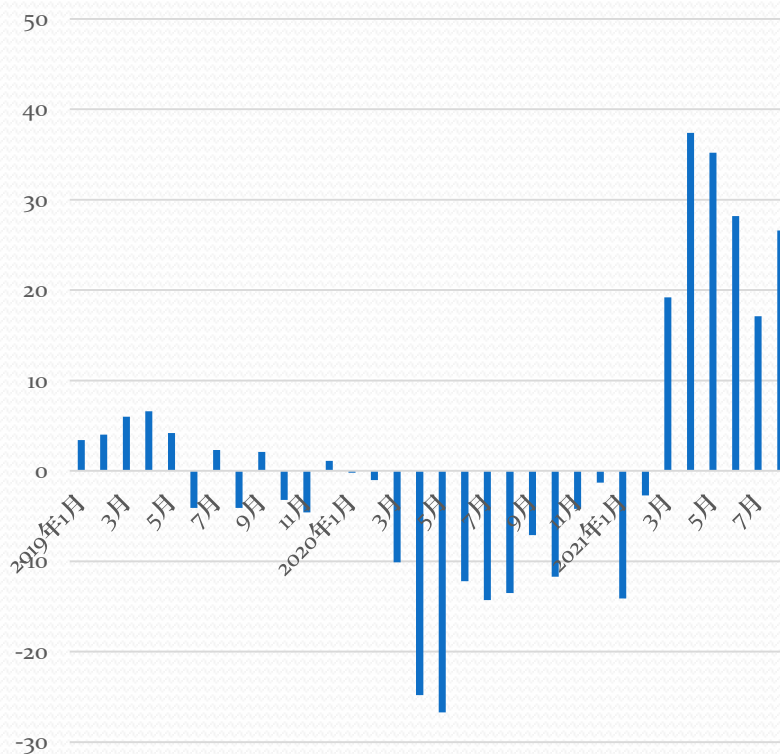
①8月の輸出の伸びは前年比+18.2%

②8月の輸入の伸びは前年比+26.6%

ユーロ圏の輸出の伸び(前年比、%)

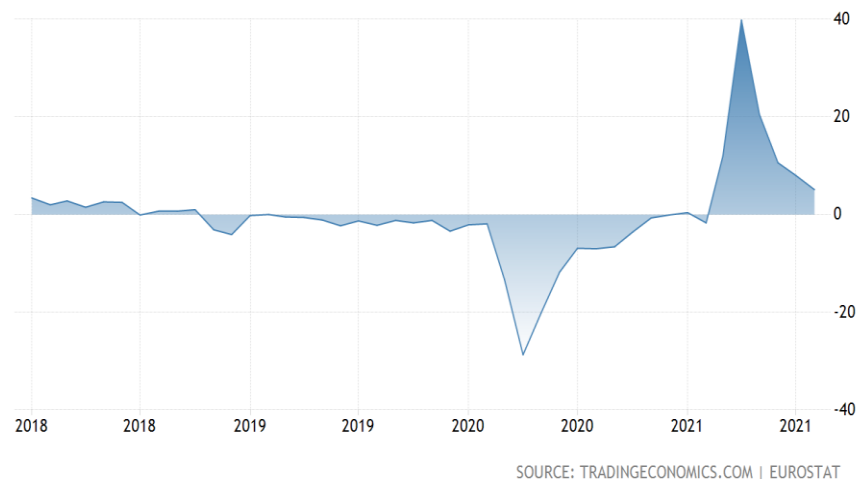
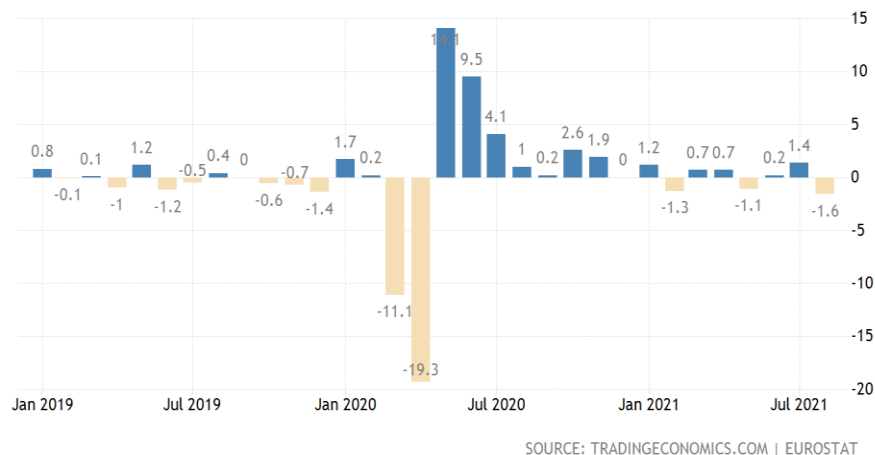


ユーロ圏の輸入の伸び(前年比、%)



4. ユーロ圏の鉱工業生産の伸びは減速傾向

- ①8月のユーロ圏鉱工業生産は前月比(右上図)▲1.6%、前年比(右下図)は+5.1%。
- ②項目別の前月比は中間財▲1.5%、エネルギー+0.5%、資本財▲3.9%、耐久消費財▲3.4%、非耐久消費財▲0.8%。
- ③前年比では中間財+6.6%、エネルギー▲0.6%、資本財+2.8%、耐久消費財▲1.9%、非耐久消費財+11.6%。
- ④国別の前月比ではドイツ▲4.1%、仏+1.0%、伊▲0.2%、スペイン+0.1%、ポルトガル▲1.4%、オランダ▲3.1%、アイルランド▲2.8%、デンマーク+3.5%、オーストリア▲0.2%、ギリシャ+0.7%。
- ⑤前年比ではドイツ+1.9%、仏+5.1%、伊0.0%、スペイン+2.0%、ポルトガル▲7.2%、オランダ+5.6%、アイルランド+22.1%、デンマーク+12.4%、ギリシャ+10.3%、オーストリア+11.0%。



5. ユーロ圏の失業率は再び低下傾向

①8月のユーロ圏失業率(右図)は7.5%と前月より▲0.1ポイントの低下。前年同月より▲1.1ポイント低下。

②最低はチェコの2.9%、最高はスペインの14.0%。

③前年8月との比較では独4.1%→3.6%、仏9.0%→8.0%、伊は10.0%→9.3%、オランダ4.6%→3.2%、スペイン16.7%→14.0%、オーストリア6.4%→6.1%、ポルトガル8.2%→6.4%、アイルランド7.1%→6.4%。

④英国の失業率は4.5%と前月より▲0.1ポイント低下(英国統計局)。



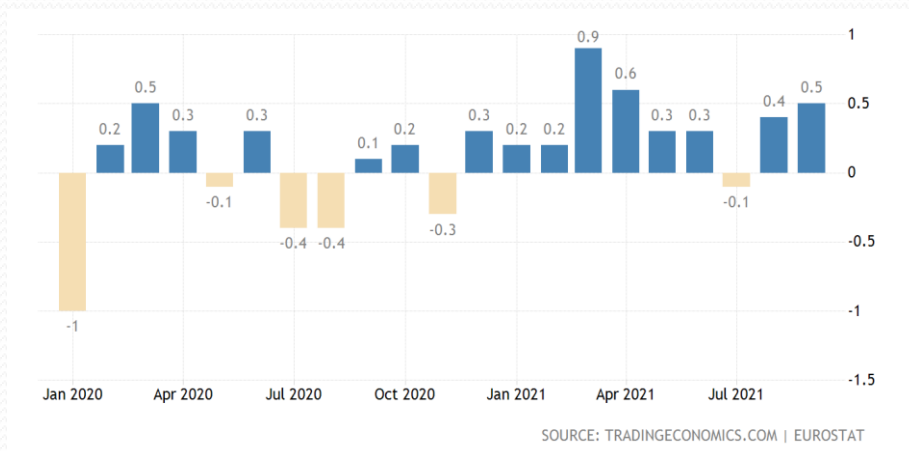
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

6. ユーロ圏のインフレ加速はエネルギー主導

①9月のユーロ圏消費者物価の前年比(右下図)は+3.4%、前月比は+0.5%(右上図)

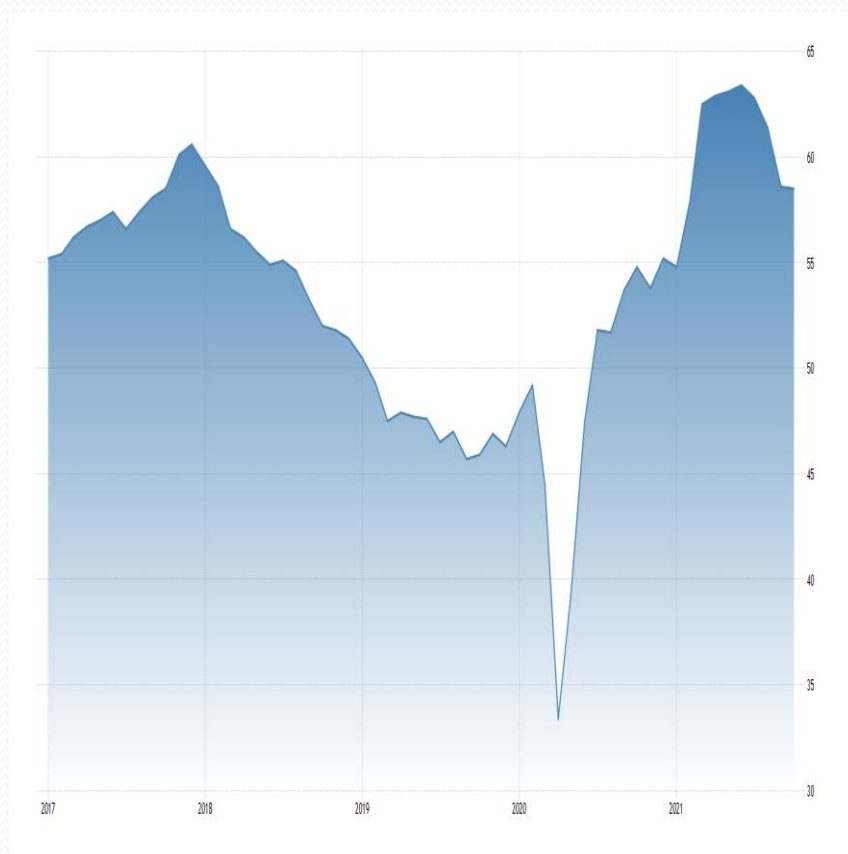
②コアCPI(エネルギー・食料・アルコール・タバコを除く)の前年比は+1.9%、前月比は+0.5%。

③項目別の前年比で食料・アルコール・タバコは7月+1.6%→8月+2.0%→9月+2.0%。エネルギーは+14.3%→+15.4%→+17.6%。非エネルギー工業品+0.7%→+2.6%→+2.1%。サービス+0.9%→+1.1%→+1.7%。

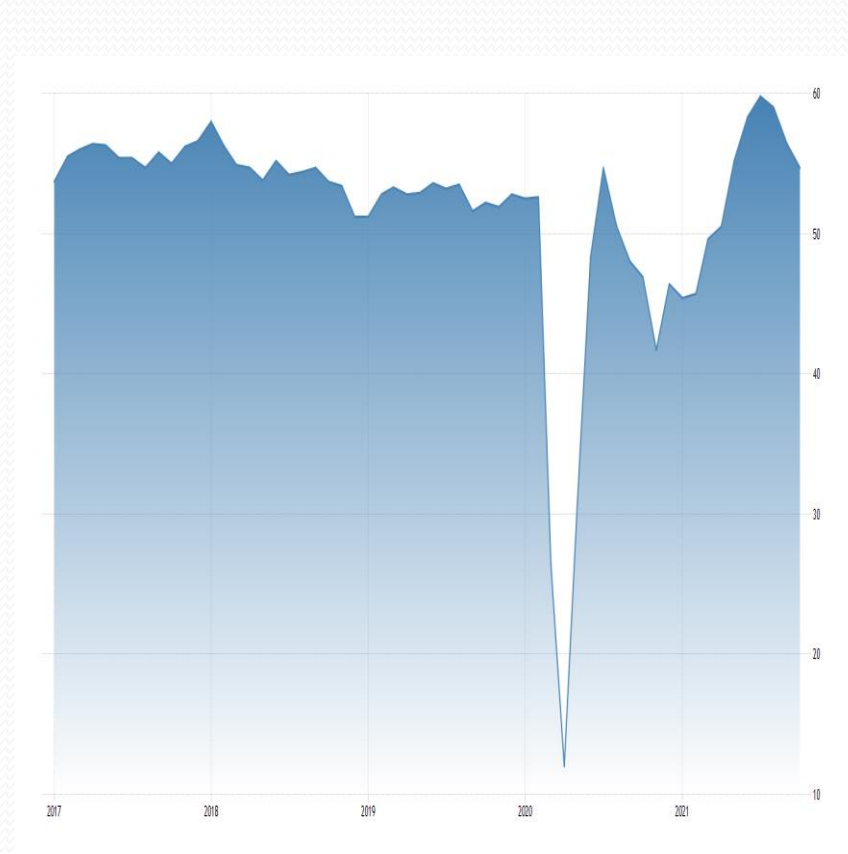


7. ユーロ圏PMIは頭打ちから下降の兆し

①製造業PMIは9月58.6→10月58.5



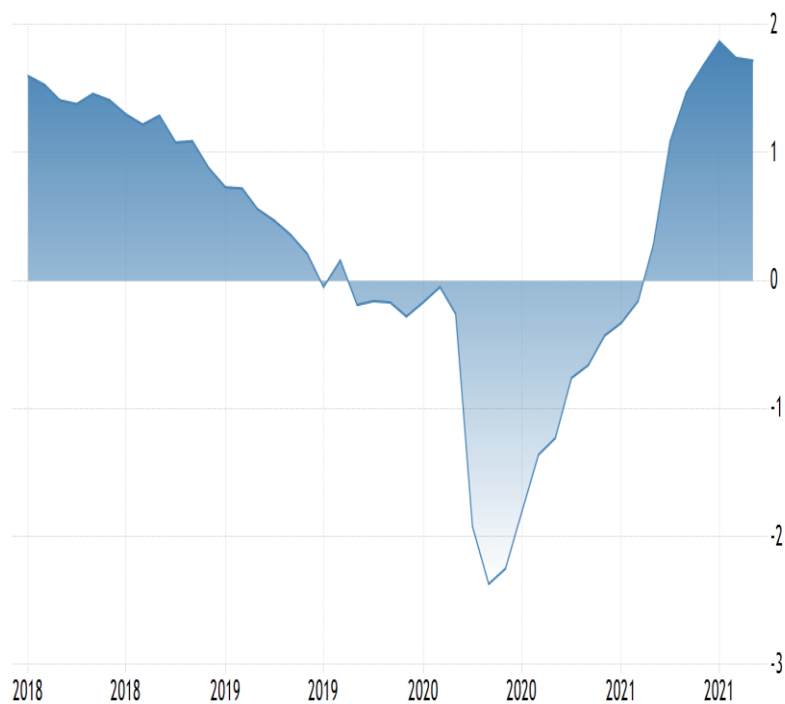
②サービス業PMIは9月56.4→10月54.7



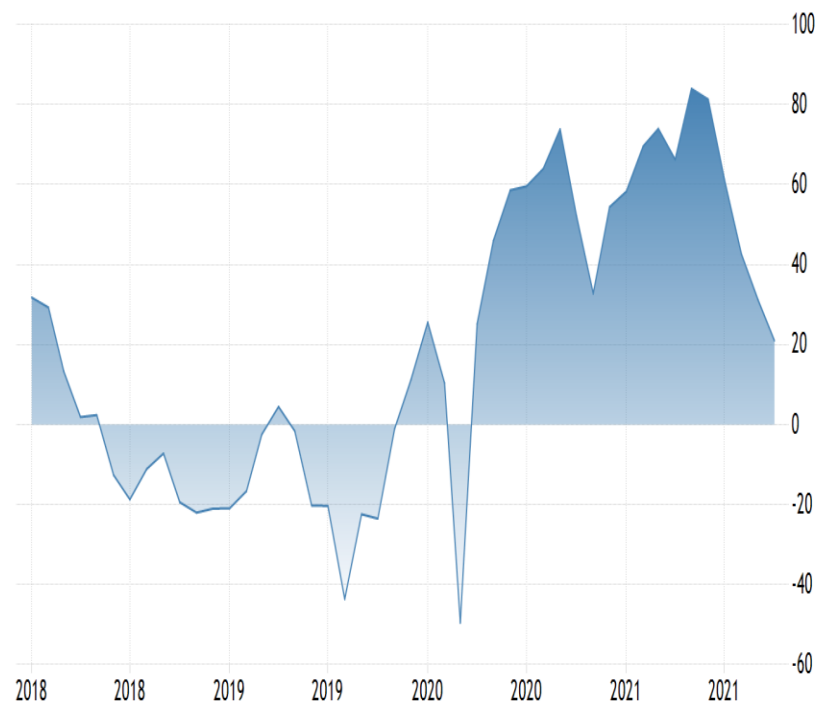
8. ユーロ圏の景気指数は頭打ちから下向き

①9月のユーロ圏業況指数 (EU委員会) は +1.72で前月比▲0.02ポイント低下。

②10月のユーロ圏ZEW景況感指数は前月比▲10.1 ポイント低下して+21.0。



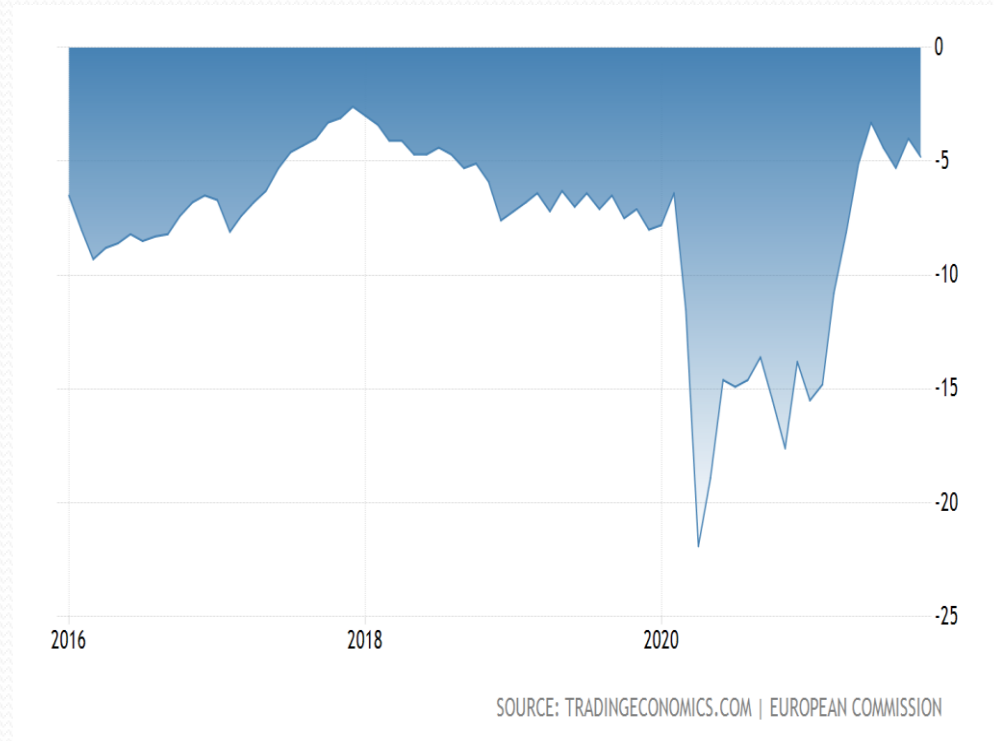
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROPEAN COMMISSION



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | CENTRE FOR EUROPEAN ECONOMIC RESEARCH (ZEW)

9. ユーロ圏消費者信頼感指数は揉み合い

欧州委員会が発表した10月のユーロ圏消費者信頼感指数(右図)は前月より▲0.8ポイント下降して▲4.8。



Ⅲ 中国經濟

1. 中国恒大集团は取り敢えずデフォルト回避

①中国の不動産大手「恒大集团」はドル建て社債の利子支払い期限を1ヶ月過ぎた10月23日に利払いを実行したことで、ひとまずデフォルトは回避された。但し、他のドル建て社債の利払いが実行されるか否か依然として不透明。

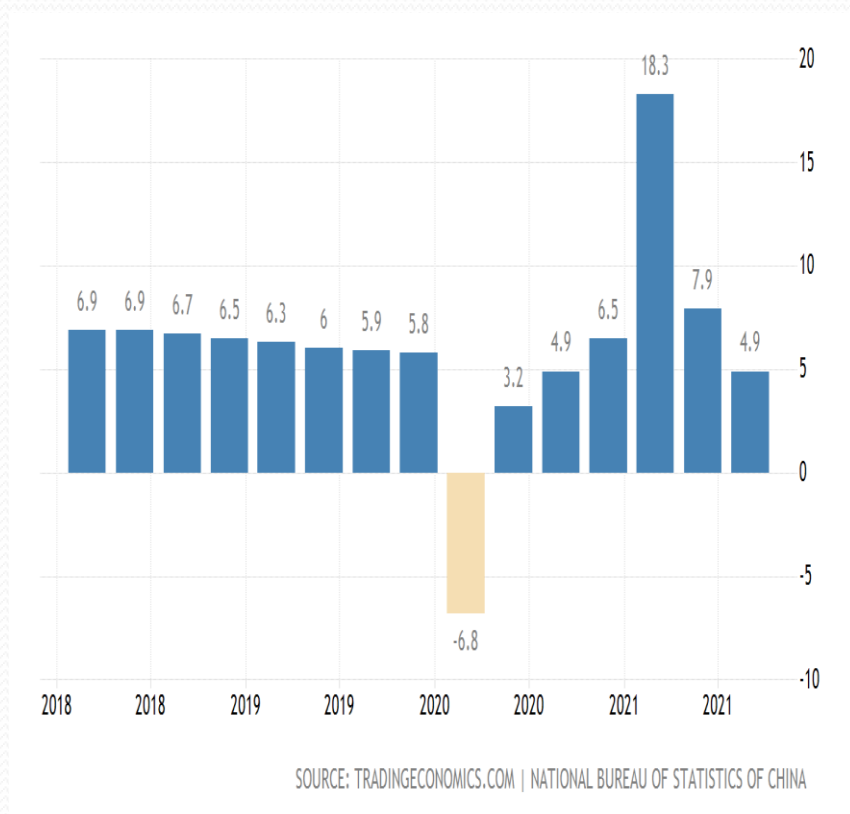
②当局は恒大に保有資産の売却を促し、金融機関には必要資金を融資するよう指示する方向と伝えられる。

③習近平の「共同富裕」の思想からはバブルで踊った不動産業者を救済するのは理屈に合わないが、負債総額2兆元(33兆円)を抱える恒大を破綻させれば、影響が大きすぎるため、取り敢えず当面は支える方向で様子見を続けられると思われる。

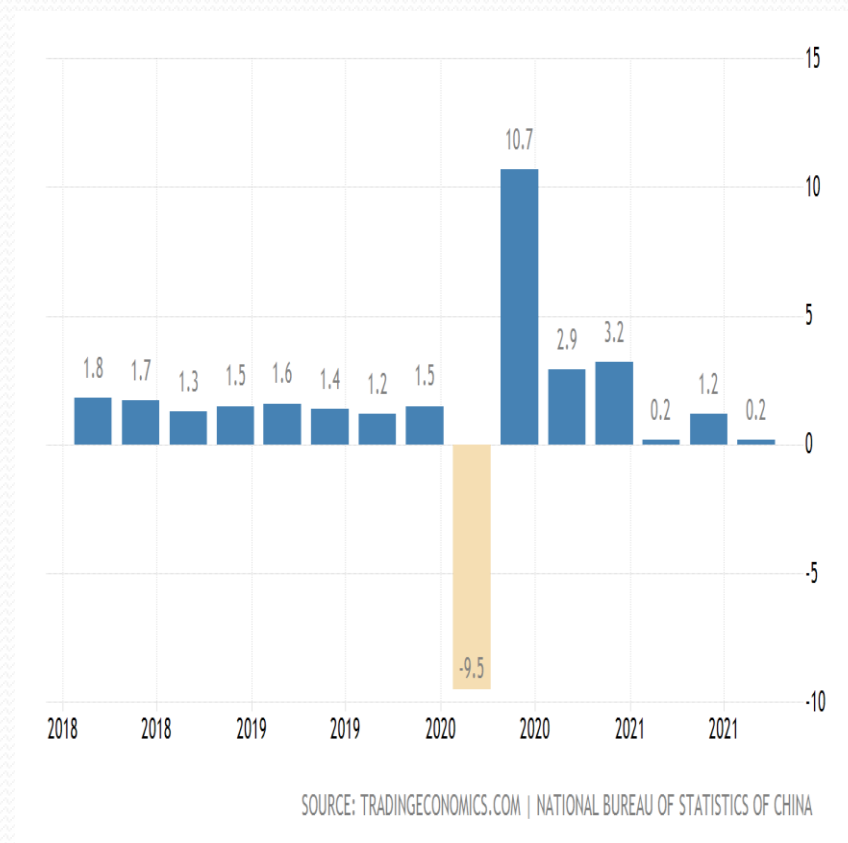


2. 中国の7～9月期GDPは減速傾向強まる

①前年比は+4.9%と減速傾向強まる



②前期比は+0.2%に減速

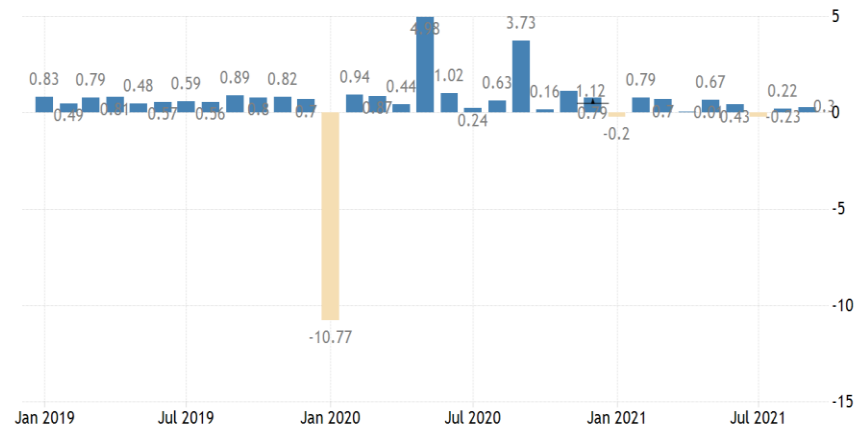


3. 中国の個人消費はコロナ感染抑制で回復

①9月の小売売上高(右下図)は前年比+4.4%。前月比(右上図)は+0.3%。

②商品別の前年比は以下の通り

	7月	8月	9月
通信機材	+0.1% → ▲14.9% → +22.8%		
自動車	▲1.8% → ▲7.4% → ▲11.8%		
建設資材	+11.6% → +13.5% → +13.3%		
家具	+11.0% → +6.7% → +3.4%		
家庭電器	+8.2% → ▲5.0% → +6.6%		
宝飾品	+14.3% → +7.4% → +20.1%		
化粧品	+2.8% → 0.0% → +3.9%		
石油製品	+22.7% → +13.1% → +17.3%		
衣類	7.5% → ▲6.0% → ▲4.8%		
事務用品	+14.8% → +20.4% → +22.6%		
医薬品	+8.6% → +10.2% → +8.6%		
日用品	+13.1% → ▲0.2% → +0.5%		
合計	+8.5% → +2.5% → +4.4%		



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

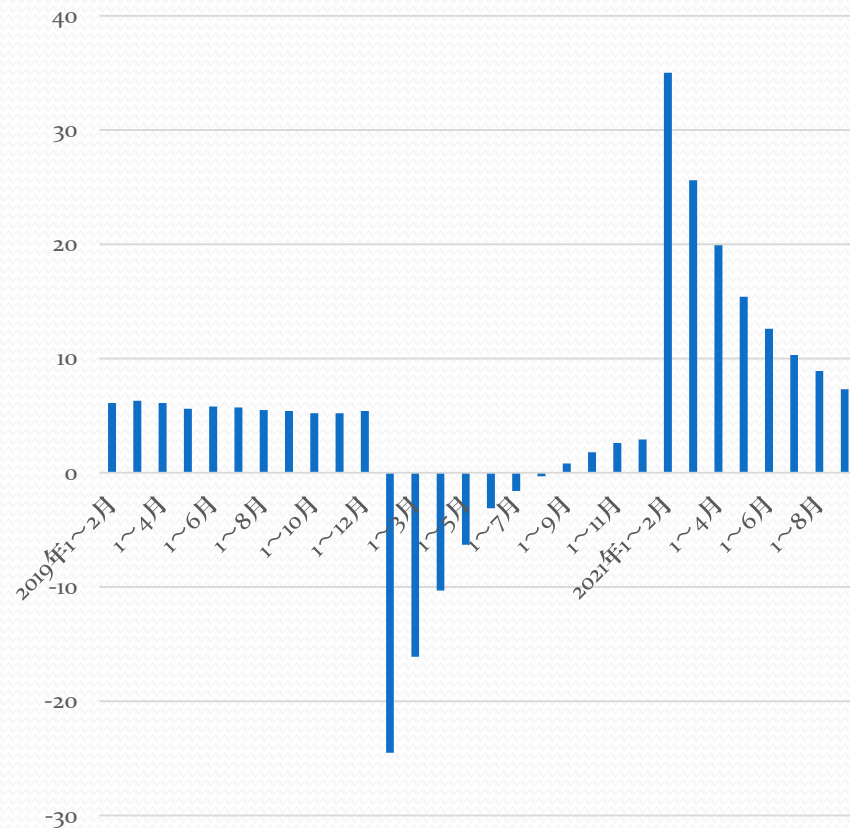
4. 中国の固定資産投資の伸びは徐々に減速

①1～9月累計の固定資産投資は前年比+7.3%(右図)のプラスと徐々に伸びが低下。

②民間投資は+9.8%、公共投資の伸びは+5.0%。

③鉱業は+6.2%。製造業+14.8%、うち食品製造+9.4%、紡績業+13.5%、化学+19.3%、医薬+14.4%、非鉄金属+10.8%、金属製品+13.4%、自動車製造▲6.5%、鉄道・船舶・航空+26.7%、電気機械+22.0%、コンピュータ・通信+24.4%。電力・ガス・水道は+1.6%、鉄道運輸は▲4.2%、道路運輸は+0.4%、水利環境公共施設+0.8%。

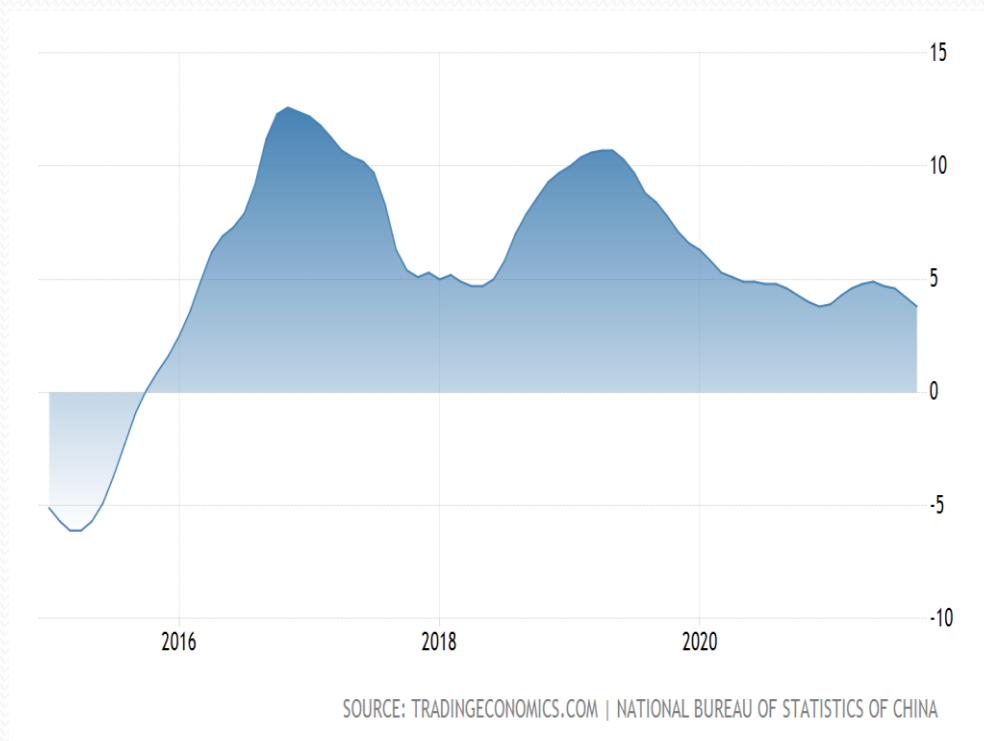
中国の固定資産投資(前年比、%)



5. 中国住宅価格は前月比横ばいと沈静化

①9月の70都市新築住宅価格は前月比横ばい、前年比(右図)は+3.8%。前月比で上昇した都市が27都市、下落したのは36都市、横ばいは7都市だった。

②都市別の前年比では
北京+4.5%、大連+6.1%
長春+0.7%、上海+4.0%
南京+5.0%、武漢+6.0%
広州+9.0%、深圳+3.8%
成都+3.6%、西安+7.5%

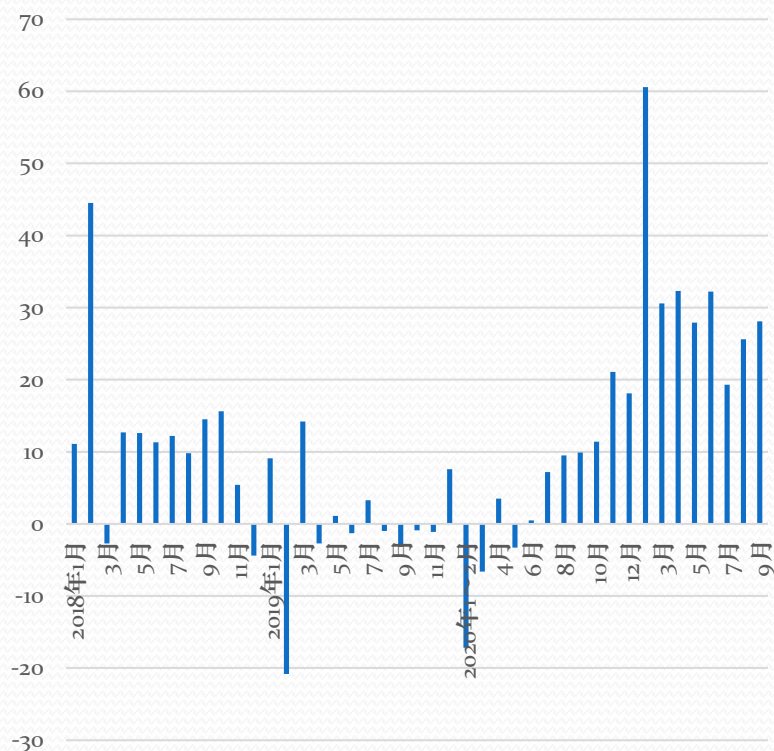


6. 中国の輸入が半導体不足などで減速

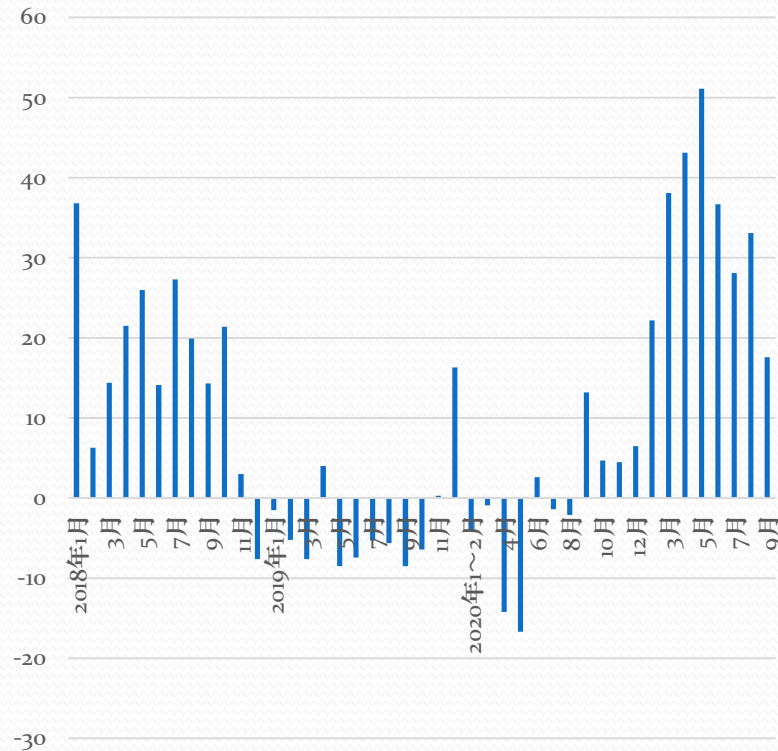
①9月の輸出の伸びは外需の回復から前年比+28.1%と高い。対米輸出+30.6%。

②9月の輸入の伸びは前年比+17.6%。半導体不足、環境要因で工業用メタル減少、建設低迷が影響。対米輸入+16.6%。

中国のドル建て輸出(前年比、%)



中国のドル建て輸入(前年比、%)

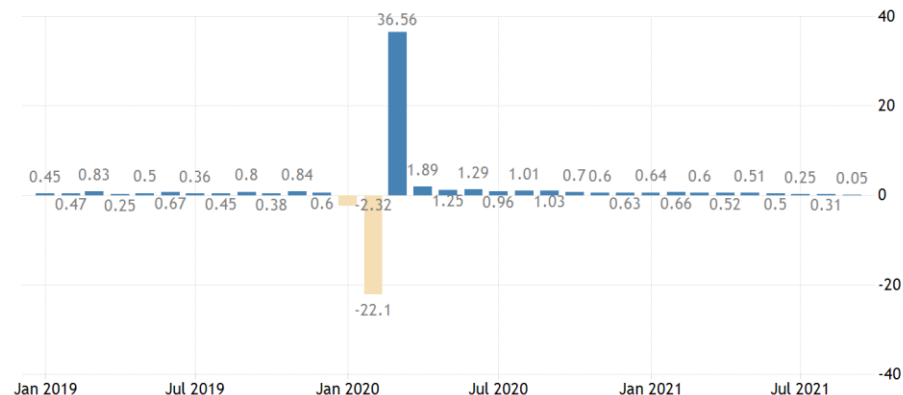


7. 中国の鋳工業生産は減速傾向強まる

①9月の鋳工業生産の前年比(右下図)は+3.1%の伸び。前月比(右上図)は+0.05%。

②製造業の前年比は+2.4%。電気・ガス・水道は+9.7%、鋳業は+3.2%。

③食品製造は前年比+2.8%、紡績▲5.8%、化学0.0%、医薬製造+26.5%、非金属鉱物製品▲1.1%、鉄鋼▲9.7%、非鉄金属+1.2%、金属製品+6.8%、自動車▲8.2%、鉄道・船舶・航空機+7.9%、電気機械+6.8%、コンピュータ・通信+9.5%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

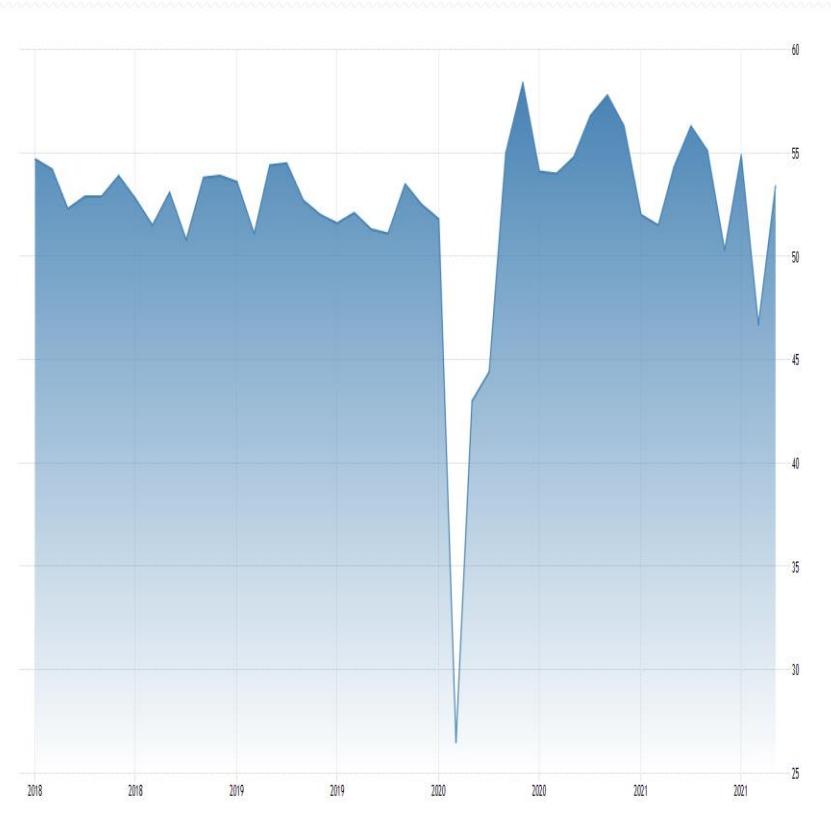
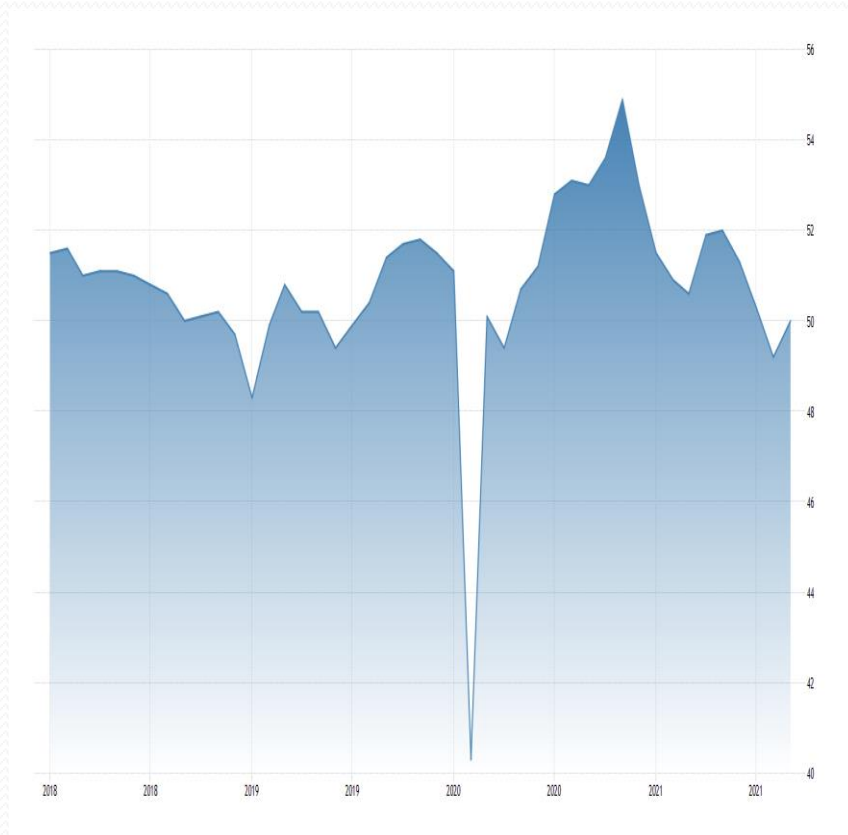


SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

8. 中国PMIは再び50台に回復

①9月製造業PMIは50.0と前月より+0.8ポイントの上昇。

②9月サービス業PMIは53.4と前月比+6.7ポイントの上昇。



9. 中国のPPIは原材料高騰で高い伸び

①9月の消費者物価の前年比(左図)は+0.7%で豚肉価格の下落から前月より▲0.1ポイント下回る。前月比は横ばい



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

②9月の生産者物価の前年比(右図)は原材料高騰による工場出荷価格の上昇から10.7%と前月を+1.2ポイント上回る。前月比は+1.2%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



IV 日本經濟

1. 岸田首相は10月31日の総選挙で洗礼を受ける

①9月29日の自民党総裁選挙で勝利した岸田総裁は10月4日の国会における首班指名の結果、第100代の総理大臣に選ばれた。衆議院は10月14日に解散され、10月31日に総選挙が実施される。岸田首相にとり、自民単独過半数233議席(衆議院議員定数465)を確保するか否かが勝敗の分かれ目。それでも現有議席276議席より大幅に減少するので、単独過半数割れたら即政局に進展する可能性。総選挙の前哨戦と言われた10月24日の参議院補欠選挙で山口で自民は勝利したものの、与野党一騎討ちとなった静岡では敗北した。今回の総選挙では野党協力が進んでおり、自民にとっては厳しい戦いとなることが予想される。



2. 短観の業況判断指数DIは上昇だが先行きは低下

①日銀短観(9月調査)によれば大企業製造業の業況判断DI(「良い」-「悪い」、%ポイント)は前回6月調査を+4ポイント上回る+18。先行き12月予想は+14と▲4ポイントの低下を見込んでいる。大企業非製造業は+1ポイント改善して+2。先行きは+1ポイント改善して+3ポイントを予想。

②中堅企業DIは製造業+6(6月比+1)、非製造業▲6(+2)、中小企業は製造業▲3(+4)、非製造業▲10(▲1)。先行きは中堅製造業が+3、中堅非製造業が▲7、中小製造業が▲4、中小非製造業が▲13と横ばいから悪化を予想している。

③経常利益の21年度計画は前年度比で大企業製造業+12.7%、大企業非製造業+23.1%、中堅企業は製造業+14.2%、非製造業+12.8%、中小企業は製造業+23.4%、非製造業+4.0%と6月調査より上方修正。

④生産・営業用設備判断(「過剰」-「不足」・%ポイント)は大企業製造業+1、大企業非製造業+2。設備投資計画は21年度で大企業製造業+13.3%、大企業非製造業+8.2%と6月調査からほぼ変わらず。

⑤雇用人員判断(「過剰」-「不足」・%ポイント)は6月、9月、12月予想で大企業製造業▲2→▲5→▲6、大企業非製造業▲10→▲11→▲14



3. 4～6月期のGDPはプラスだが回復力は弱い

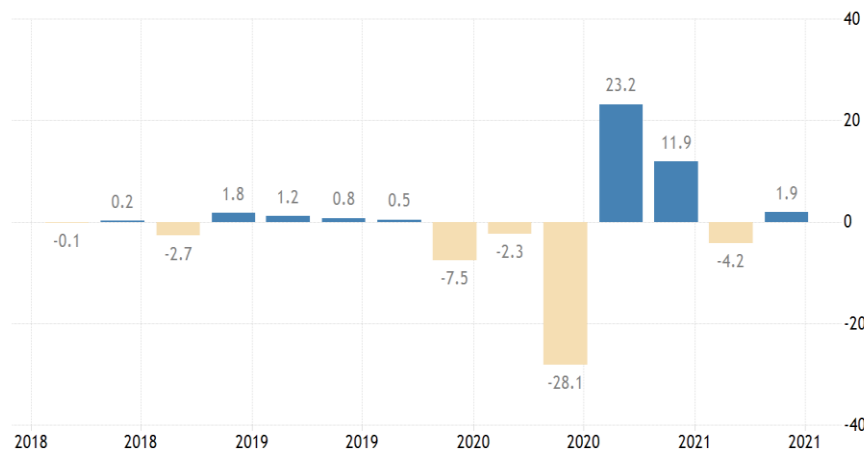
①4～6月期の実質GDP(2次速報)は前期比+0.5%、前期比年率+1.9%(右上図)のプラス成長だったが、金額は539.3兆円と2019年7～9月期の557.8兆円に戻っていない。内需の寄与度は+0.8%、外需▲0.3%。実質GDPの前年同期比(右下図)は+7.6%と7四半期ぶりにプラス。

②4～6月期の名目GDPは前期比▲0.1%、前期比年率▲0.5%、前年比は+6.4%。GDPデフレーターは前期比▲0.6%、前年比は▲1.1%。

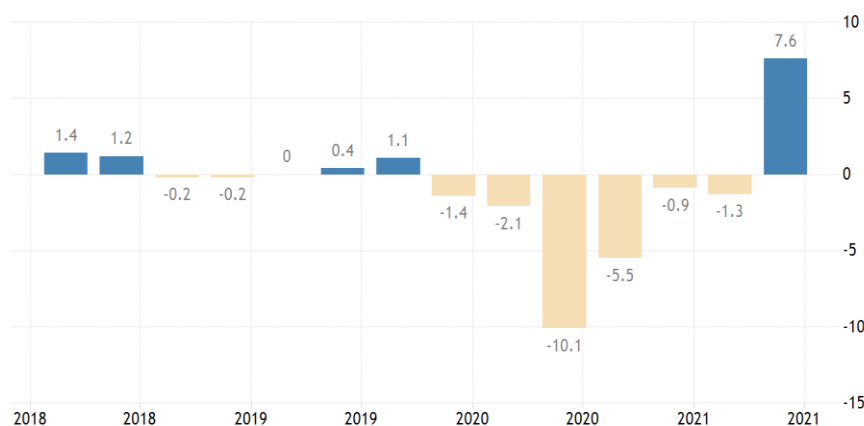
③需要項目別で民間最終消費支出は前期比+0.9%(年率+3.8%)、寄与度は+0.5%。民間企業設備は前期比+2.3%(年率+9.5%)、寄与度は+0.4%。民間住宅は前期比+2.1%(年率+8.5%)、寄与度+0.1%。民間在庫変動の寄与度▲0.3%。

④政府最終消費は前期比+1.3%(年率+5.4%)、公的固定資本形成は前期比▲1.7%(年率▲6.5%)で、政府支出合計の寄与度は+0.2%。

⑤輸出は前期比+2.8%(年率+11.8%)と4期連続のプラス、輸入は前期比+5.0%(年率+21.4%)。



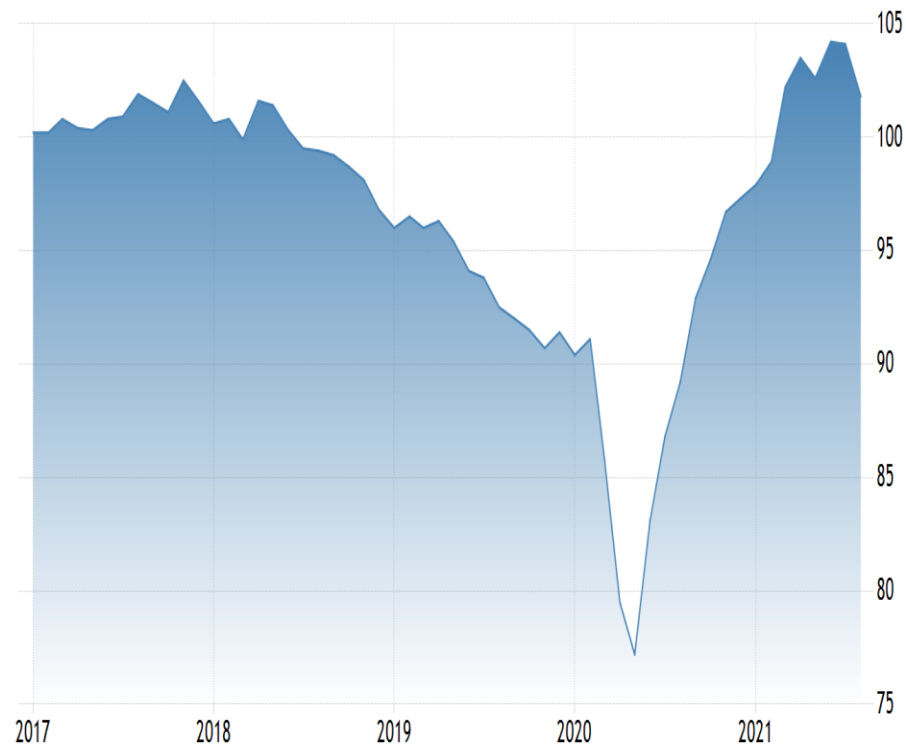
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN

4. 景気動向指数はやや頭打ちの兆し

- ①8月の先行指数速報値(右図)は101.8で、前月比▲2.3ポイントと2ヶ月連続の低下。
- ②一致指数は91.5で前月比▲2.9ポイントと2ヶ月連続の低下。
- ③遅行指数は94.8で前月比▲0.5ポイントと3ヶ月ぶりの低下。
- ④内閣府の基調判断(一致指数)は「改善を示している」に据え置き。

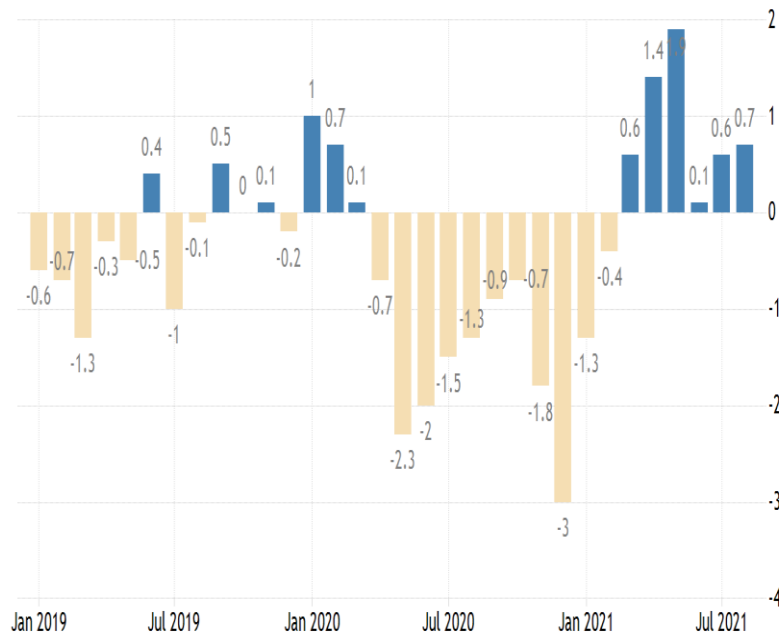


SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN

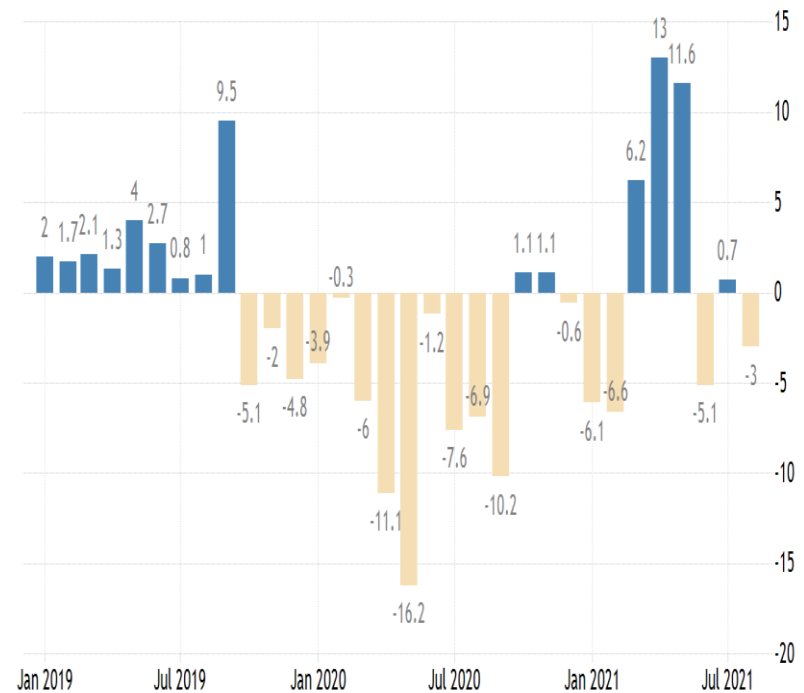
5. 家計消費8月は緊急事態宣言発動下で弱い

(1) 8月の現金給与総額の前年比は+0.7%
(下図)。所定内給与は+0.2%。所定外給与
+6.5%、特別給与+2.0%。実質賃金の伸びは
+0.2%。

(2) 8月の家計消費は4度目の緊急事態宣言で前
年比で名目▲3.5%、実質は▲3.0%(下図)と減少



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF HEALTH, LABOUR AND WELFARE, JAPAN

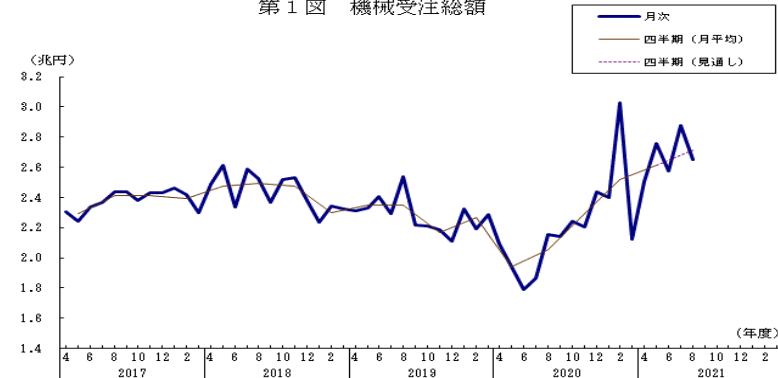


SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF INTERNAL AFFAIRS & COMMUNICATIONS

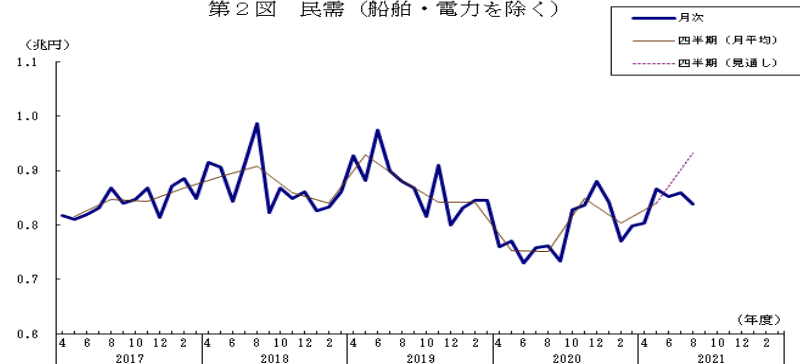
6. 機械受注は持ち直しに足踏みが見られる

- ①民間設備投資の先行指標である8月の機械受注「船舶・電力を除く民需」(右下図)は前月比▲2.4%。前年比+17.0%。
- ②製造業受注は前月比▲13.4%、前年比は+22.4%。前月比で17業種中、情報通信機械、その他輸送機械など6業種が増加。造船業、食品製造業など11業種が減少
- ③非製造業受注(船舶・電力を除く)は前月比+7.1%、前年比+12.4%。前月比で12業種中、増加したのは卸売業・小売業、通信業など7業種で、情報サービス業、金融業・保険業など5業種が減少。
- ④内閣府の基調判断は「持ち直しの動きに足踏みが見られる」に下方修正。

第1図 機械受注総額



第2図 民需 (船舶・電力を除く)



(備考)

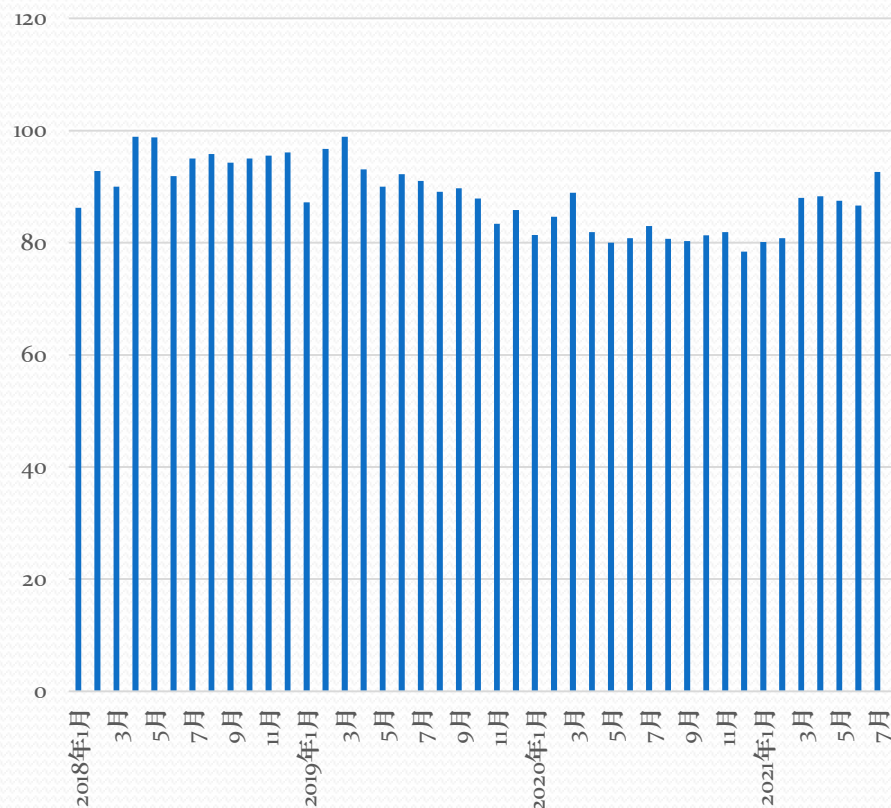
1. 四半期 (月平均) は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示 (例えば 7～9 月の月平均値は 8 月の位置に表示)。
2. 「2021年 7～9 月 (見通し)」の計数は、「見通し調査 (2021年 6 月末時点)」の季節調整値を 3 で割った数値。

7. 住宅着工戸数は回復傾向一服

①8月の住宅着工戸数は74,303戸で前年比は+7.5%と6ヶ月連続の増加。季調済年率で85.5万戸(右図)、前月比は▲7.7%。

②持家は25,100戸、前年比は+14.5%と10ヶ月連続の増加。貸家は28,733戸、前年比は+3.8%と6ヶ月連続の増加。分譲住宅は19,936戸、前年比は+5.3%。分譲マンションは7,968戸、前年比は▲15.0%。分譲一戸建て住宅は11,783戸、前年比は+24.6%で4ヶ月連続の増加

日本の住宅着工戸数(季調済年率、万件)

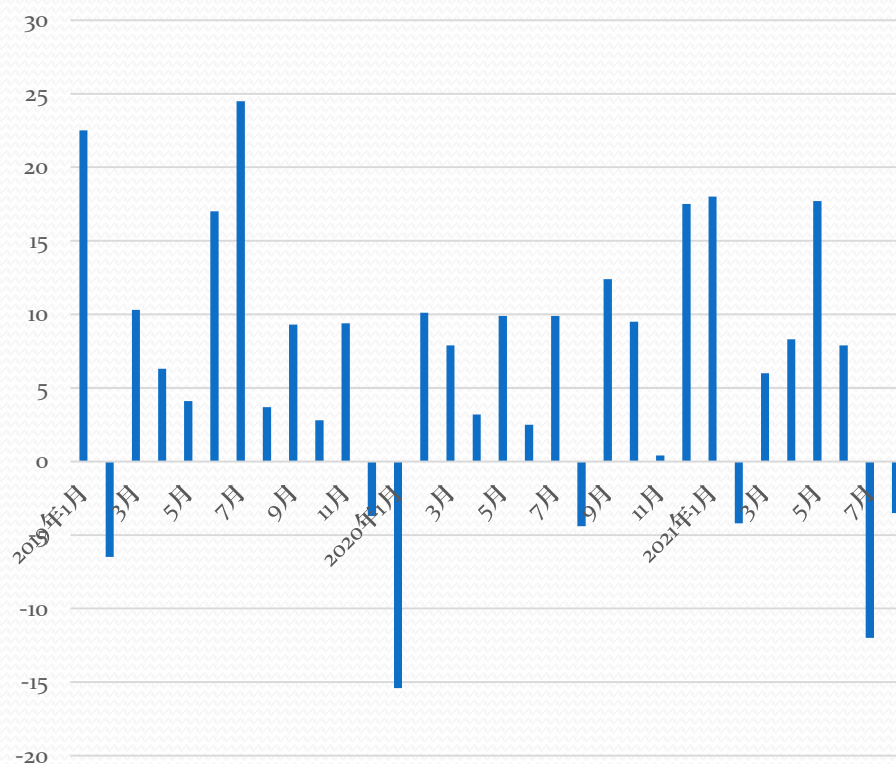


8. 公共工事受注は土木工事の減少が響く

①8月の公共工事受注は前年比▲3.5%と2ヶ月連続の減少。(注:4月からの推計方法の変更により、右図の伸び率のデータは連続性がない)

②工事分類別では土木工事は▲9.9%、建築工事・建築設備工事+18.1%、機械装置等工事▲9.8%。

公共機関からの受注工事(前年比、%)



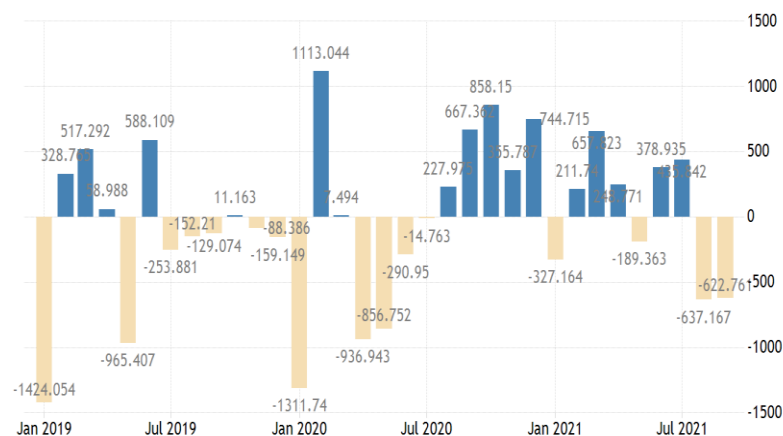
9. 原材料輸入増で貿易赤字続く

①9月の貿易収支は前年比▲1兆2,901億円悪化して▲6,228億円(右上図)の赤字に転化。輸出は前年比+13.0%、金額は6兆8,412億円。数量(右下図)前年比+3.3%、価格前年比+9.4%。輸入は前年比+38.6%、金額は7兆4,640億円。数量の前年比+7.6%、価格の前年比+28.8%。

②地域別輸出でアジア向けは+21.3%(うち中国+10.3%、香港+14.3%、台湾+31.0%、韓国+24.5%、タイ+36.9%、インドネシア+90.4%、インド+42.0%)、米国▲3.3%、西欧+1.7%、中東▲4.7%

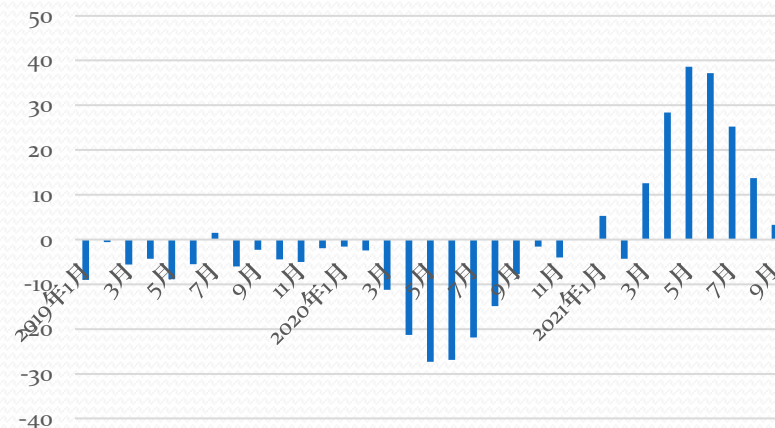
③商品別輸出は乗用車▲46.6%の不振が目立つ。航空機類は▲53.3%。半導体等電子部品+20.2%、鉄鋼+94.4%、有機化合物+45.6%、半導体製造装置+26.2%。

④商品別輸入は鉱物性燃料+90.0%(原油及び粗油+90.6%、石油製品+77.3%、LNG+67.6%、石炭+136.4%)、鉄鉱石+125.6%、非鉄金属+66.9%、鉄鋼+104.0%が高い伸び。



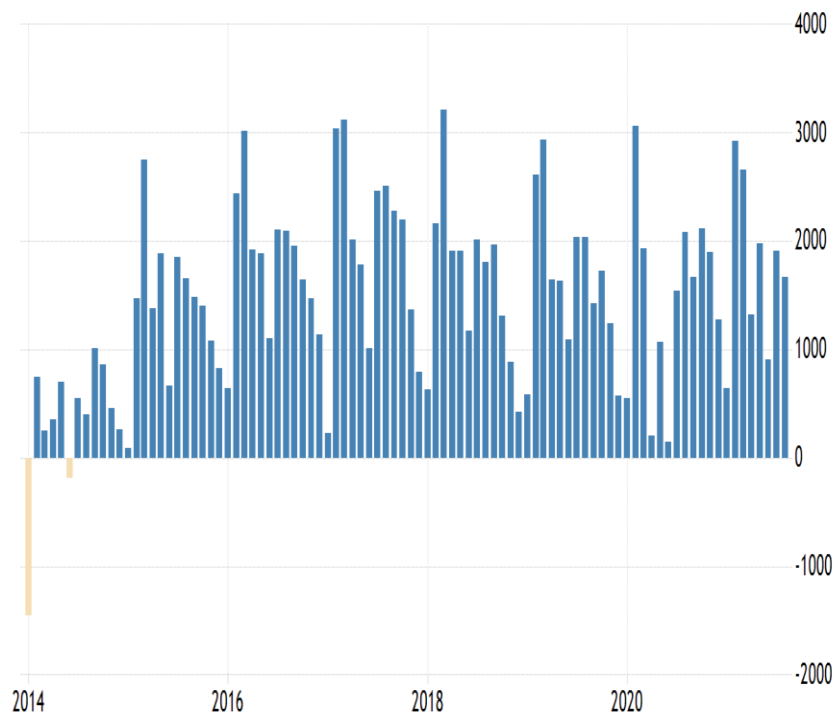
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF FINANCE, JAPAN

日本の輸出数量(前年比、%)



10. 貿易収支赤字転化で経常黒字縮小

- ①8月の経常収支(右図)は前年比▲4,156億円黒字が縮小して、1兆6,656億円の黒字となった。
- ②貿易収支は前年比▲7,767億円悪化して▲3,724億円の赤字転化。輸出は前年比+27.1%の6兆5,138億円、輸入は前年比+45.9%の6兆8,862億円。
- ③サービス収支は+1,311億円赤字が縮小して▲1,949億円の赤字。
- ④第一次所得収支は証券投資収益の黒字幅拡大により、+1,993億円黒字が拡大して2兆4,259億円の黒字。第二次所得収支は+546億円赤字が縮小して▲1,931億円の赤字



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF FINANCE, JAPAN

11. 日本の雇用は依然として力強さを欠く

①8月の就業者数は原系列で6,693万人、前年比+17万人と5ヶ月連続の増加。季調済(右上図)では6,676万人で前月比▲32万人と3ヶ月ぶりの減少。原系列で雇用者数は5,970万人、前年比+24万人で5ヶ月連続の増加。正規は3,582万人、前年比+47万人で15ヶ月連続の増加、非正規は2,060万人、前年比▲10万人と5ヶ月ぶりの減少。

②産業別就業者の前年比では製造業+15万人、卸売業・小売業+17万人、医療・福祉+30万人、学術研究・専門・技術サービス業+33万人が増加。宿泊業・飲食サービス業▲25万人、建設業▲12万人が減少。

③完全失業者数193万人で前年比▲13万人。完全失業率は2.8%と前月と変わらず。

④有効求人倍率(右下図)は1.14倍で前月より▲0.01ポイント低下。



12. 鉱工業生産は半導体不足が響き足踏み

①8月の鉱工業生産指数(確報)は94.6で、前月比(右上図)は▲3.6%。前年比は+8.8% (右下図)と6ヶ月連続プラス且つ前年の反動増。

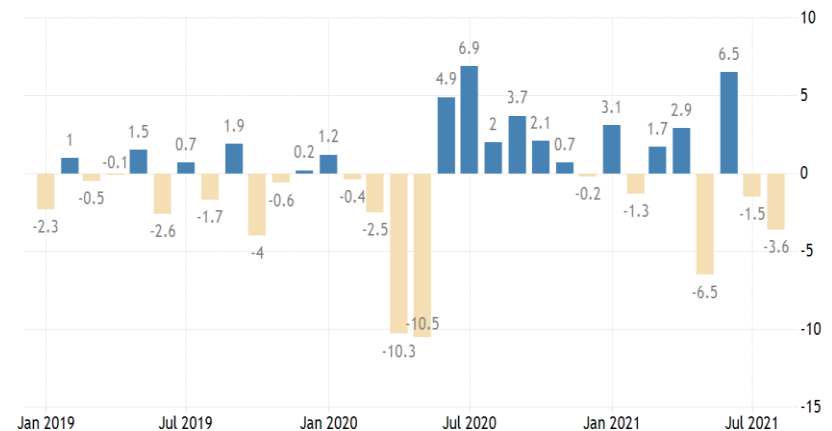
②業種別前月比では半導体不足が響き自動車工業が▲15.2%と大幅減産、あと電気・情報通信機械工業▲10.7%、生産用機械工業▲3.2%、食料品・たばこ工業▲2.3%などが低下。窯業・土石製品工業+2.2%、無機・有機化学工業+1.3%、石油・石炭製品工業+2.9%などが上昇。

③業種別前年比で生産用機械工業+41.5%、鉄鋼・非鉄金属工業+20.4%、電子部品・デバイス工業+20.2%、汎用・業務用機械工業+21.7%などが上昇。

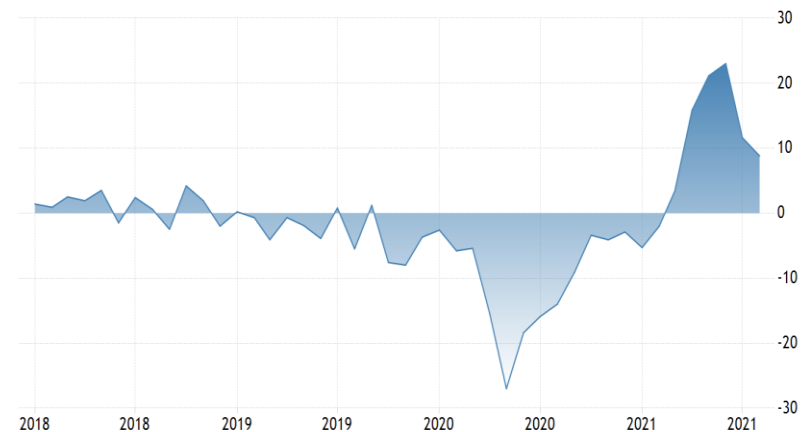
④9月の製造工業生産予測指数は前月比+0.2%の上昇、10月は+6.8%の上昇を予想。

⑤設備投資の先行指標である資本財(輸送機械を除く)出荷は前月比▲2.8%、前年比+27.4%。

⑥経産省は基調判断を「生産は持ち直している」から「**生産は足踏みをしている**」に変更。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF ECONOMY TRADE & INDUSTRY (METI)



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF ECONOMY TRADE & INDUSTRY (METI)

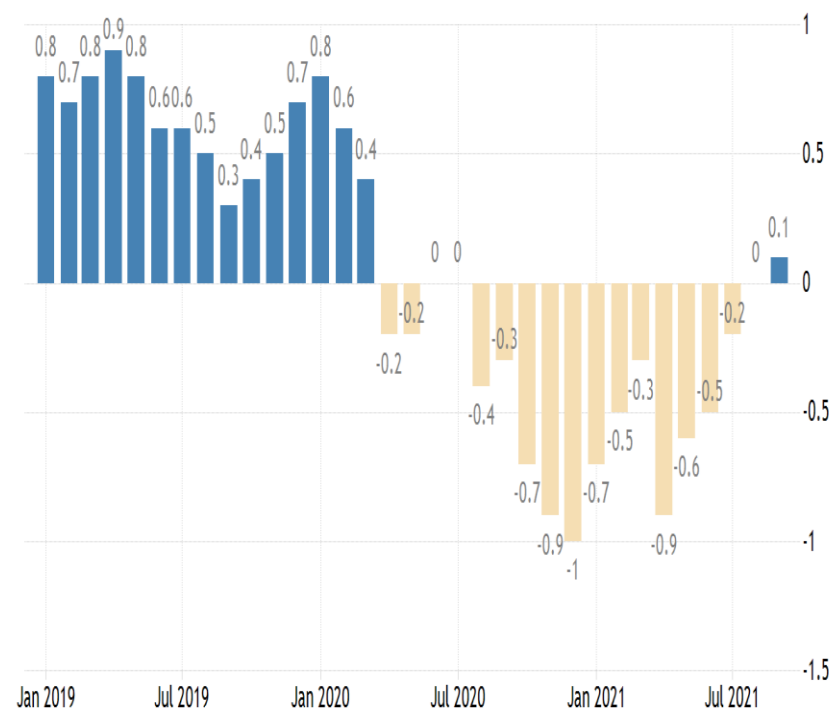
13. コア消費者物価の伸びはプラスに戻す

①9月のコア消費者物価(生鮮食品を除く総合)の前年比(右図)は+0.1%と18ヶ月ぶりのプラスに。前月比は+0.1%。

②総合消費者物価の前年比は+0.2%、前月比は+0.4%。エネルギーの前年比は+7.4%、寄与度は+0.52%。食料の前年比は+0.9%で寄与度は+0.23%。

③生鮮食品及びエネルギーを除く総合の前年比は▲0.5%、前月比は0.0%。

④項目別前年比で上昇したのは火災・地震保険料+15.8%、ガソリン+16.5%、灯油+20.2%、宿泊料+43.1%。下落は通信料(携帯)▲44.8%など。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | STATISTICS BUREAU OF JAPAN

V マーケット動向

1. 日本の貿易収支悪化と米長期金利上昇で円安



2. ECBの資産購入やや減速の方針でユーロ高



3. 人民元は対ドルで横ばい続く



4. NYダウは35770.83ドルと史上最高値更新



5. 日経平均はNYダウ高騰、コロナ収束、恒大で交錯



6. 独株価 (DAX) は独選挙結果等で様子見



7. 上海株価は恒大で神経質な動き



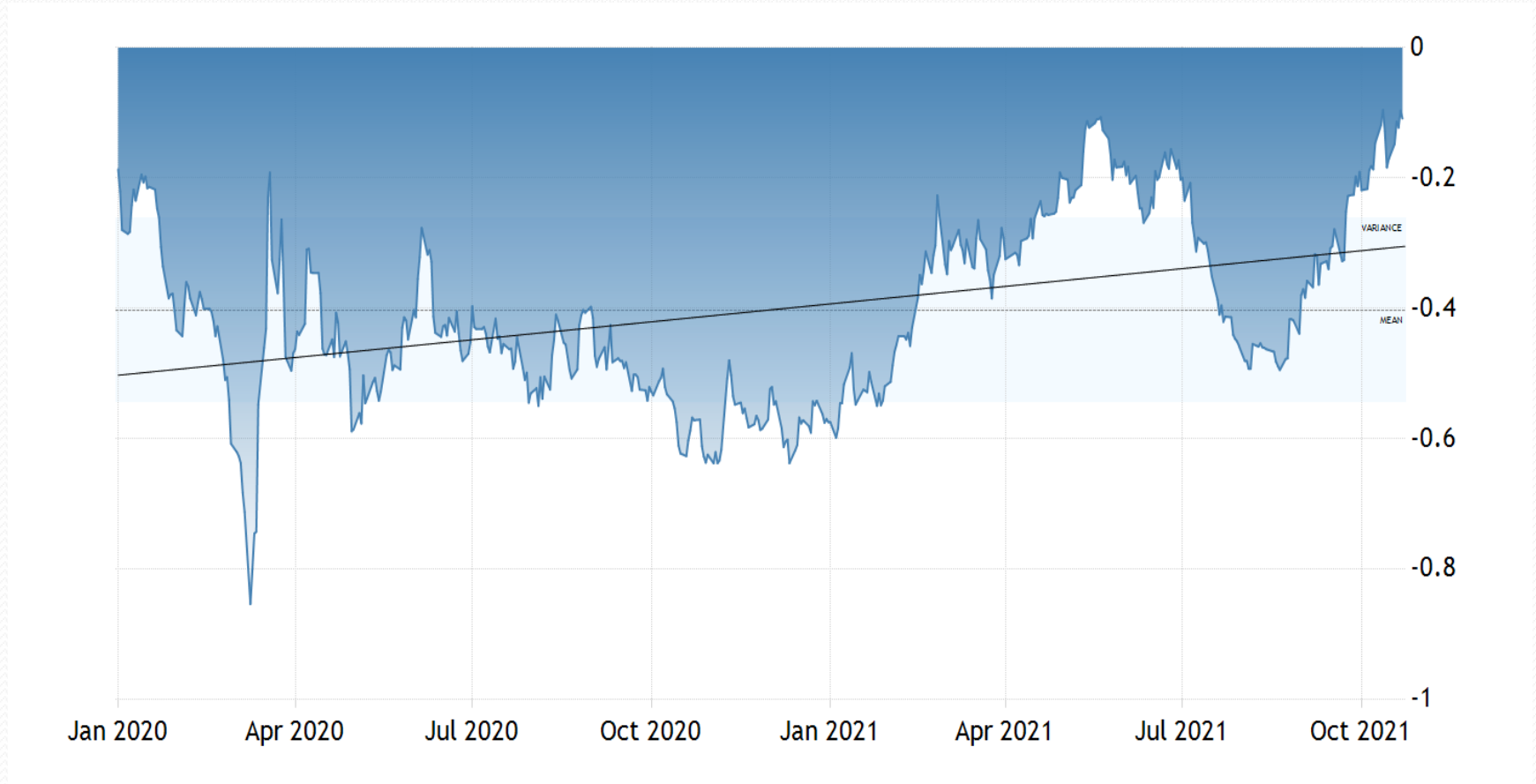
8. 米長期金利はインフレ加速から上昇続く



9. 日本の長期金利はやや上向き



10. 独長期金利はマイナス金利幅縮小方向



11. 中国の長期金利は底ばいから反転上昇



12. 原油価格(ブレント)は需給逼迫で80ドル超え



13. 金価格は一進一退の動きが続く





完